

# 佐原駅周辺地区複合公共施設整備事業基本計画(案)

平成28年11月

香取市

## 目次

### 1. 佐原駅周辺地区複合公共施設整備事業基本計画について

- 1-1 基本計画策定の目的
- 1-2 基本計画策定の基本的考え方
- 1-3 上位計画等の整理

### 2. 香取市の現状と課題

- 2-1 香取市の概況
- 2-2 香取市中心市街地の概要
- 2-3 公共施設整備の現状と課題
- 2-4 アンケート調査の整理

### 3. 事業対象地周辺の状況と本事業の位置づけ

- 3-1 事業対象地の位置
- 3-2 事業対象地の状況
- 3-3 中心市街地周辺との連携と一体化

### 4. 基本方針とコンセプト

- 4-1 複合施設が果たすべき役割と効果
- 4-2 整備の基本方針
- 4-3 基本理念とコンセプト

### 5. 導入機能の検討

- 5-1 整備方針
- 5-2 導入施設の基本的な考え方と施設構成
- 5-3 全体想定面積
- 5-4 各施設面積と利用者数の想定

### 6. 施設機能の概要

- 6-1 施設機能の特徴とイメージ
  - (1) 観光情報発信施設
  - (2) 図書館
  - (3) 子育て関連施設（子育て支援センター・児童館）
  - (4) 社会福祉関連施設（社会福祉協議会）
  - (5) 公民館的機能（地域交流センター）
  - (6) 市民活動支援センター
  - (7) 民間施設
  - (8) バス乗降所

### 7. 敷地利用計画の検討

- 7-1 建設用地の検討
- 7-2 動線計画の検討
- 7-3 駐車場計画の検討
- 7-4 敷地利用計画の検討
- 7-5 概略施設ゾーニング
- 7-6 基本イメージ

### 8. 施設計画の配慮事項

- 8-1 周辺環境への配慮
- 8-2 防災への配慮

### 9. 事業手法の検討

- 9-1 事業手法の整理と評価
- 9-2 財源の検討
- 9-3 事業手法検討に係るポイントと方向性

### 10. 管理運営計画の検討

- 10-1 管理運営の基本方針
- 10-2 管理運営手法の検討
- 10-3 管理運営体制の検討

### 11. 実現化に向けての検討

- 11-1 実現化への課題
- 11-2 概算工事費の検討
- 11-3 事業スケジュール

### 12. 基本計画の策定過程

- 12-1 主な策定過程

### 13. 資料編

- 13-1 参考施設事例

# 1. 佐原駅周辺地区複合公共施設整備事業基本計画について

## はじめに

### 1-1 基本計画策定の目的

佐原駅周辺地区複合公共施設整備事業基本計画（以下「基本計画」という。）は、香取市が佐原駅周辺地区の大型店舗跡地において整備を計画している複合公共施設（以下、「複合公共施設」という。）について、施設の必要性の整理とともに、複合公共施設の役割、規模等について具体的検討を行うことを目的として策定しました。

### 1-2 基本計画策定の基本的な考え方

香取市では、佐原駅周辺地区における市街地活性化を図るため、同地区にある大型店舗跡地等を活用し、本市の「観光振興・市民交流の促進」の拠点と位置付けた施設整備を行う具体的な計画として、平成25年3月、「（仮称）情報・交流センター整備事業基本計画」を策定しましたが、市全体の施設整備等を検証した結果、佐原中央図書館等の大規模改修や（仮称）総合福祉センターなど新たに施設整備を必要とする事業があったことから、導入施設を再度検証するとともに、計画を見直すこととしました。（次頁図1-1参照）

見直しにあたっては、商業機能や公共・公益施設等の生活サービス機能の集積した市街地の活性化を一体的に推し進め、市内・市外から人を集め、中心市街地に賑わいを創出するとともに、高齢者から子ども達までが、まちなかに安心して楽しく住み続けることのできるまちの実現を目的とした複合的な施設とすることを基本計画策定にあたっての基本的な考え方としました。

# 1. 佐原駅周辺地区複合公共施設整備事業基本計画について

## 図1-1 公共施設整備方針の見直し

(仮称)情報・交流センター整備事業基本計画(平成25年3月)

佐原駅周辺地区複合公共施設整備事業基本構想

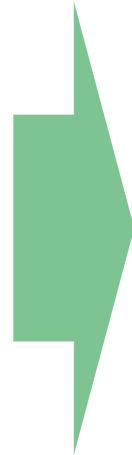
### 【基本理念】

香取市の「観光振興」と  
「市民交流の促進」拠点を整備

### 【基本理念】

人々が集い、暮らし、交流する「にぎわい  
のある香取市のまちづくり拠点」を整備

1. 観光振興機能の充実  
→佐原の大祭及び町並み  
展示室、特産品販売所等  
(香取市、佐原の紹介)
2. 市民交流機会の促進  
→多目的室、多目的広場、  
休憩スペース等

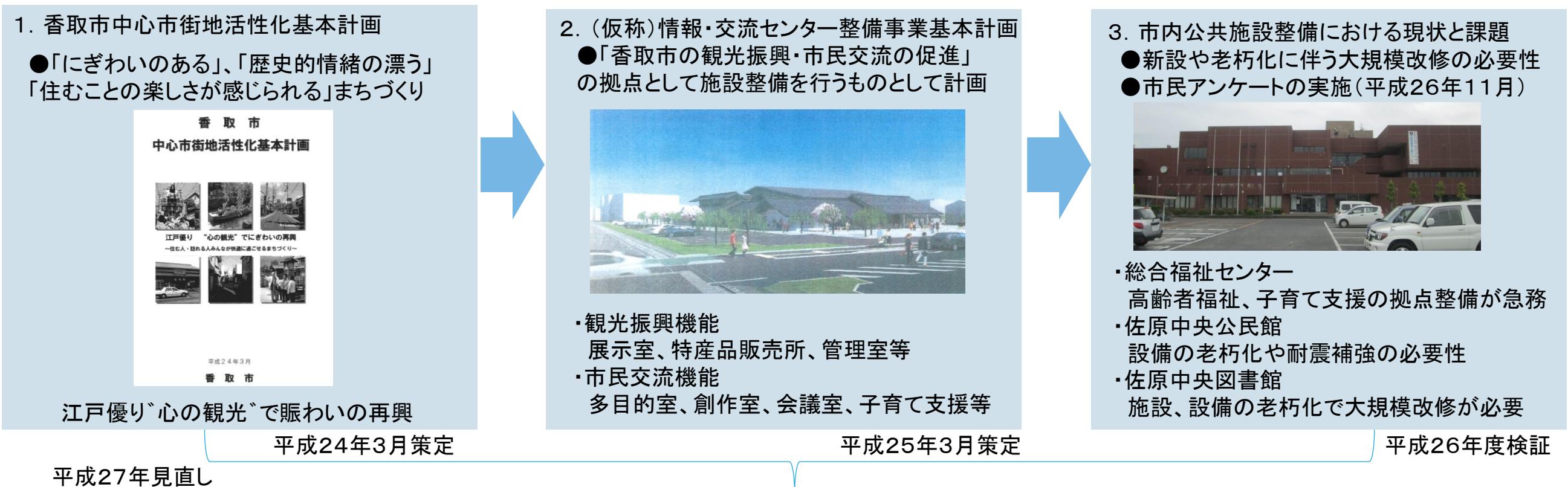


1. 市民の生活サービス機能の充実  
→福祉関連施設の整備
2. 老朽化した公共施設の建て替え  
→公民館、図書館の整備
3. 観光情報発信機能の強化  
→多彩な地域資源の魅力紹介施設の整備
4. 多機能複合化による集客拠点性の強化  
→各公共公益施設の諸機能を併せ持つ複合  
施設の整備
5. 市民ニーズへの対応  
→飲食、物販施設等の整備
6. 複合施設利用者の利便性の向上  
→民間事業者との連携やテナントの導入

# 1. 佐原駅周辺地区複合公共施設整備事業基本計画について

## 1-3 上位計画等の整理

佐原駅周辺地区複合公共施設整備事業基本計画の策定にあたり、香取市中心市街地活性化基本計画（以下、「中活計画」という。）や（仮称）情報・交流センター整備事業基本計画などを整理・検証し、新たな基本計画を検討しました。



## 4. (仮称)情報・交流センター整備事業基本計画の見直しへ

- 導入施設の再検証(平成27年5月)
- ・市民アンケート結果(平成27年3月)
- ・(仮称)総合福祉センターの整備等(市総合計画)
- ・佐原中央図書館、公民館の大規模改修
- ・商業施設の整備

必要となるサービス  
や機能構成、施設規模等について検討

### ●新たな基本計画における重要な検討事項

- ①施設概要の検討  
福祉関連施設、図書館、公民館、商業施設それぞれの基本的な考え方と施設概要。
- ②施設規模の検討  
各部門諸室、諸機能の内容を整理し、必要とされる施設規模の検討。
- ③利点と課題の整理  
単体の施設としては無く、一体的に整備することの利点を整理。
- ④事業化に向けた基礎検討  
管理運営体制及び事業費軽減に関する基礎検討。
- ⑤次期都市再生整備計画の検討  
平成28年度で終了する現行計画に続く、次期都市再生整備計画(期間5年:平成29年度から平成33年度まで)について検討。

→市全体の施設整備等の再検証

佐原駅周辺地区複合公共施設整備事業基本計画策定業務へ

## 2. 香取市の現状と課題

### 2-1 香取市の概況

#### (1) 香取市の位置と地勢

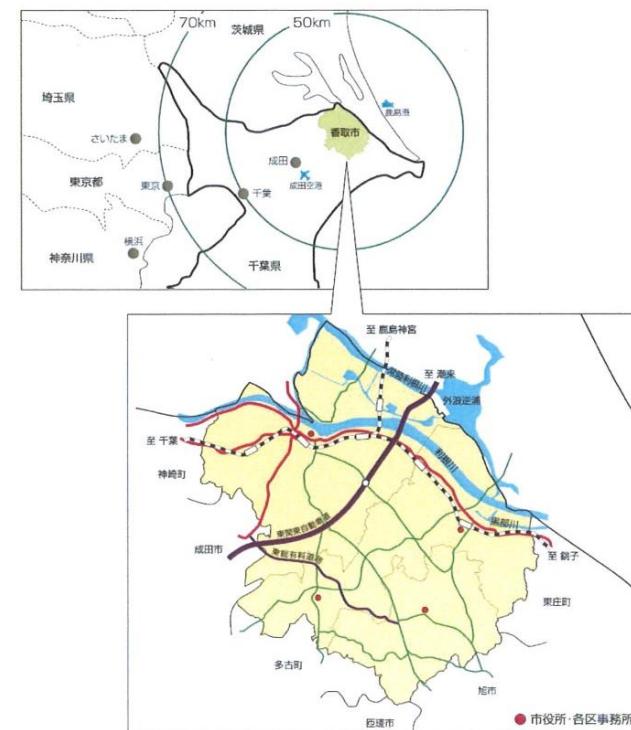
香取市は千葉県の北東部に位置し、北部は茨城県と接している。東京から70km圏、千葉市から50km圏にあり、世界への玄関口となっている成田空港からは15km圏に位置しています。

市の北部には水郷の風情が漂う利根川が東西に流れ、その流域には水田地帯が広がり、南部は山林と畑を中心とした平坦地で北総台地の一角を占めています。

香取市の中心部である佐原は舟運で栄えた水郷のまちとして知られており、中心部を流れる小野川沿いには「伊能忠敬」の旧宅（国史跡）や、江戸時代～昭和初期に建てられた商家や土蔵が現在も残っています。

関東地方で初めての「重要伝統的建造物群保存地区」にも選定されたほか、平成28年4月には、「日本遺産」にも選定されており、自然・歴史・文化に彩られたまちとして地域の資源を活かした観光振興を推進しています。

また、この市中心部は、主要な公共施設が集積しており、JR佐原駅があり公共交通基盤の中心であるとともに、伝統的な町並みや大祭の残る観光名所にもなっておりとして地域の資源を活かした観光振興を推進しています。



香取市中心市街地活性化基本計画より

### 2-2 香取市中心市街地の概要

香取市中心市街地は、古くは江戸時代から水運を活用して酒、醤油、漬物等の農業加工品を生産し、またそれら大消費地・江戸へと運ぶ生産・流通の拠点商業都市であり、多くの人々や物資が行き交うまちとして発展してきました。

また、水郷観光の拠点として発展してきたまちでもあり、近年は“おもてなしの心”を持って観光客を迎え、市民と観光客との心の触れ合い・交流をテーマとした“心の観光”を推進しています。

一方、中心市街地は、平成18年3月に佐原市、小見川町、山田町、栗源町が合併して誕生した香取市の「顔」として、香取市全体の社会・経済の発展を支えていくことが求められています。



小江戸めぐりパンフレットより

## 2. 香取市の現状と課題

### 2-3 公共施設整備の現状と課題

佐原中央公民館及び佐原中央図書館は、ともに建設後37年以上が経過し、老朽化とともに耐震強度不足などから建て替え等の必要性に迫られています。

#### 【佐原中央公民館】



#### ●劣化状況及び問題点

- ①近隣市町の施設と比較して施設及び設備が古い、暗い、汚いという意見が多い。
- ②施設の耐震化が必要で、外壁等にも欠損がある。空調設備等も老朽化しており更新が必要。等

#### 【佐原中央図書館】



#### ●劣化状況及び問題点

- ①近隣市町の施設と比較して施設及び設備が古い、暗い、汚いという意見が多い。
- ②配管設備等の老朽化により、雨漏り、水漏れが多発しており、資料収集・保存を目的とする施設として問題がある。
- ③現在の旧型の書架では地震発生時には蔵書の転落等の恐れがあり危険。その他空調機能の低下や設備面での劣化が進んでいる。等

大規模改修、移設費用、財源、場所等について総合的に検討

#### ●佐原中央公民館及び佐原中央図書館の再整備についての検討結果

佐原中央公民館及び佐原中央図書館は、「施設を移転」し、「複合施設として建て替える」こと、また、建て替え場所については、利便性の高い現施設に近い「清見屋跡地」が望ましい。

出典 佐原コミュニティセンター施設の整備充実等に関する検討委員会報告書(平成27年3月)

## 2. 香取市の現状と課題

### 2-4 アンケート調査の整理

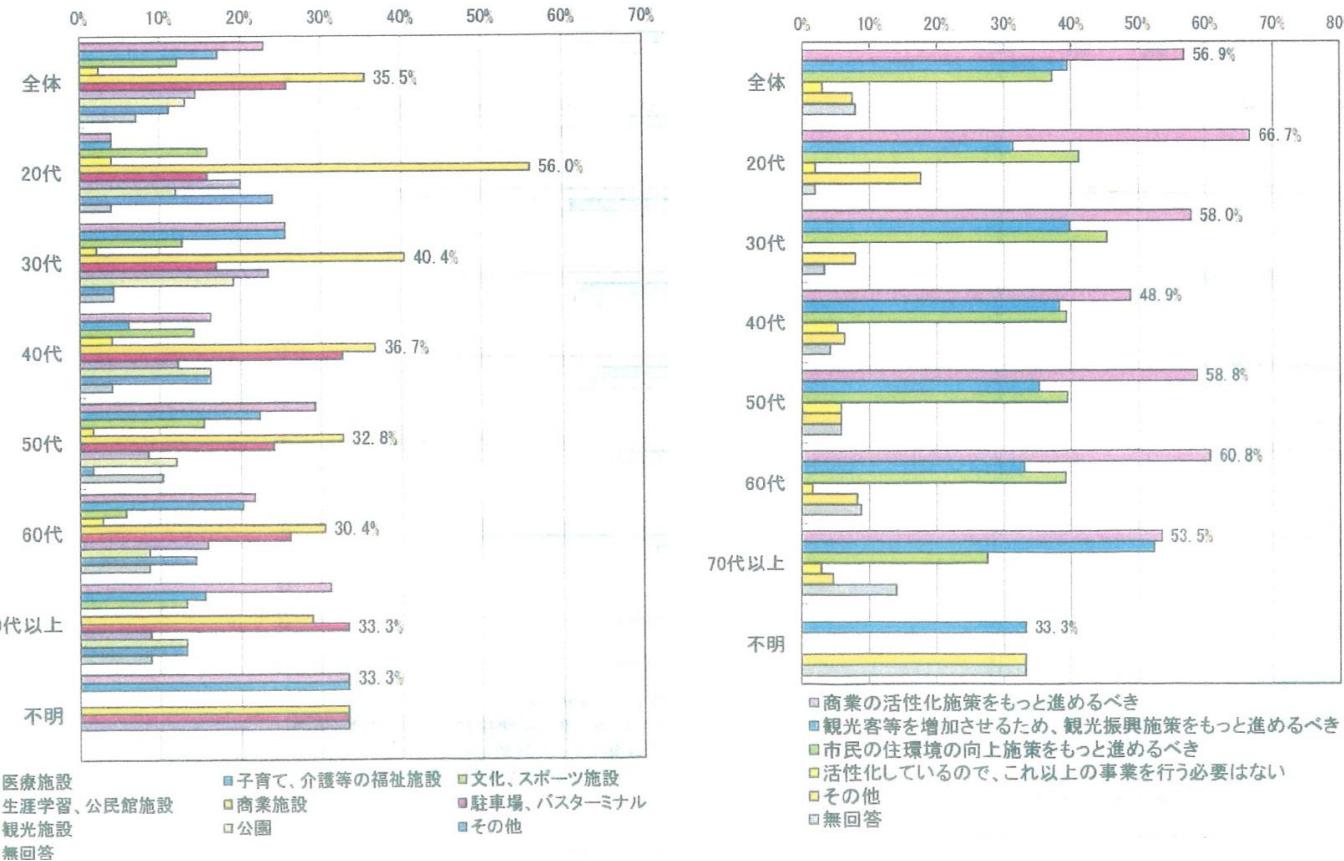
平成26年度に佐原駅周辺地区活性化拠点施設整備事業及び佐原中央公民館・佐原中央図書館について、アンケートを実施した結果、各施設に期待するものは以下の通りとなります。

1. 佐原駅周辺地区整備への要望
  - ・商業施設
  - ・駐車場、バスターミナル
  - ・商業の活性化
2. 公民館への要望
  - ・売店、飲食店
  - ・食事のできるスペース
3. 図書館への要望
  - ・CDやDVD等の視聴覚資料の充実
  - ・新刊書や専門書など図書の種類の充実
  - ・売店、飲食店の設置
  - ・食事のできるスペース

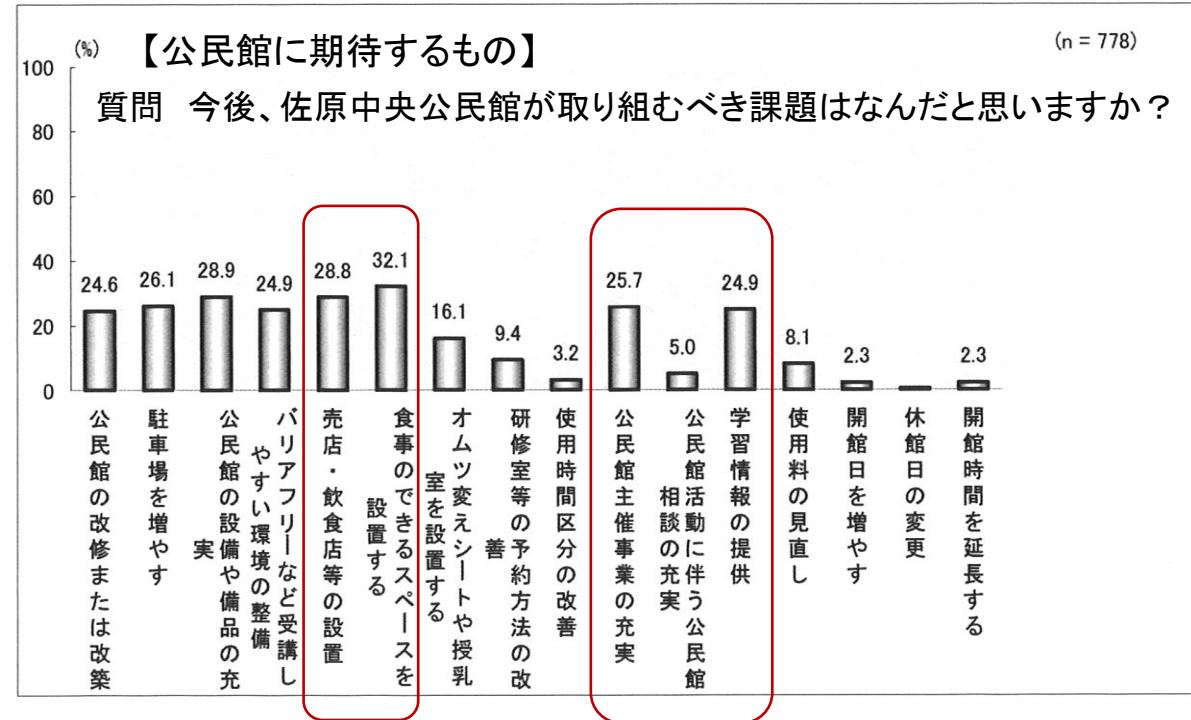
#### 【佐原駅周辺地区に期待するもの】

質問 佐原駅周辺地区にどの様な施設を充実してほしいですか？(左下図)

質問 今後「佐原駅周辺地区のまちづくり」で特に力を入れてほしいことは何ですか？(右下図)



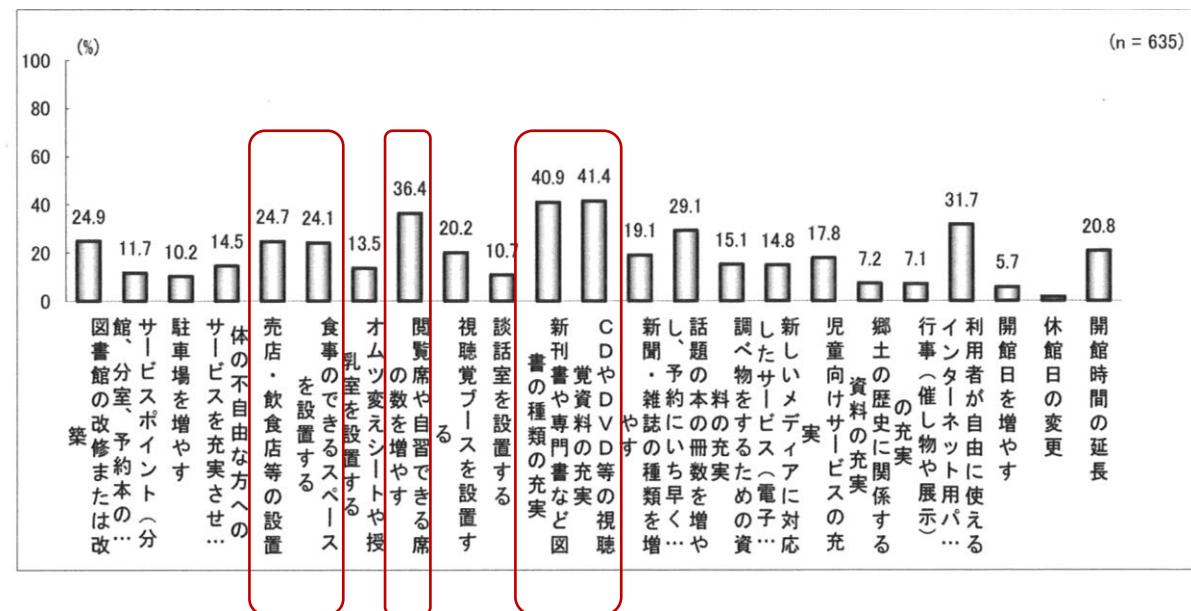
出典 佐原駅周辺地区活性化拠点整備事業に関する市民アンケート(平成27年3月)



出典 佐原中央公民館施設アンケート(平成27年3月)

#### 【図書館に期待するもの】

質問 今後、佐原中央図書館が取り組むべき課題はなんだと思いますか？



出典 佐原中央図書館施設アンケート(平成27年3月)

# 3. 事業対象地周辺の状況と本事業の位置づけ

## 3-1 事業対象地の位置

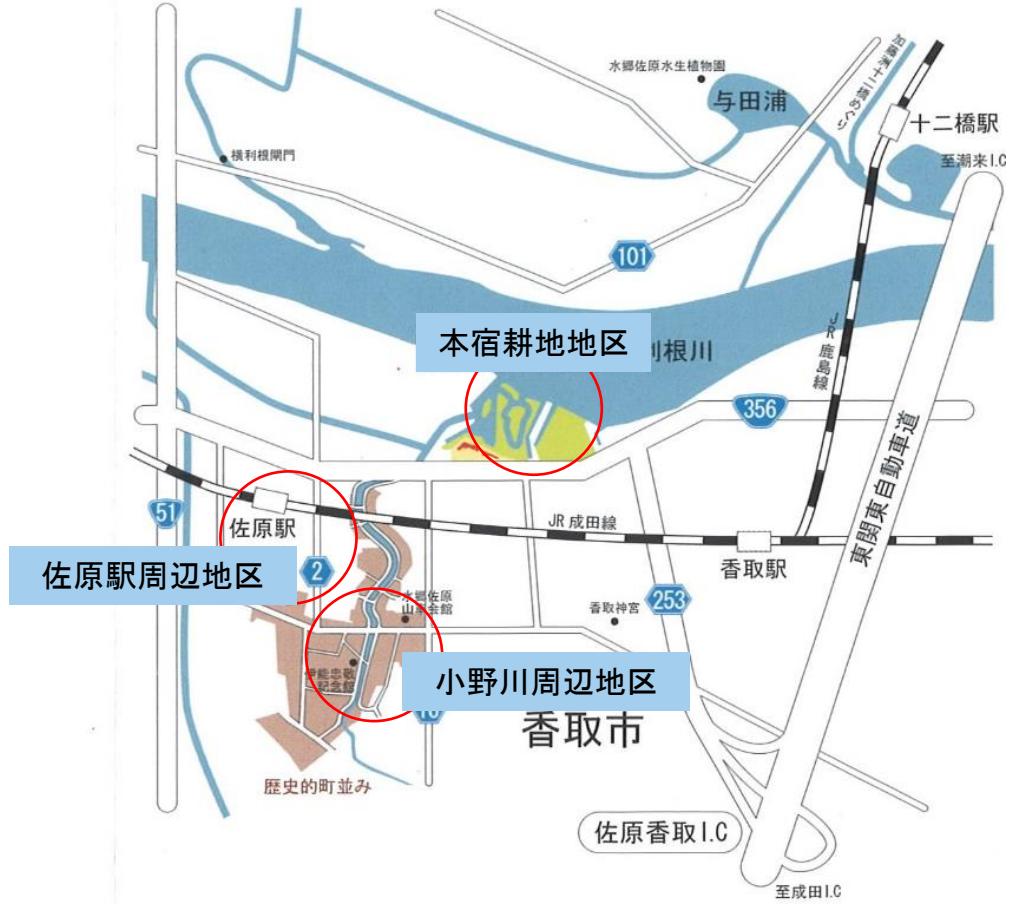
事業対象地は、香取市中心市街地の「佐原駅周辺地区」に位置しており、地区内には交通結節点であるJR佐原駅が立地しています。また、駅南口から小野川方面にかけては商店街が立地しており、これら商店街の活性化が本地区のまちづくりにおける課題となっています。

一方、中心市街地の南側に位置する「小野川周辺地区」には歴史的町並み（国の重要伝統的建造物群保存地区）や各種観光施設が立地しており、香取市を代表する観光地として近年賑わいを見せています。

また、中心市街地の東側に位置する「本宿耕地地区」には道の駅・川の駅「水の郷さわら」が開業（平成22年）し、市の広域交流拠点として機能しています。この「小野川周辺地区」と「本宿耕地地区」については観光客の相互の流れができつつあります。

以上のような現状認識に基づき、中活計画では、本事業の実施を見据えて佐原駅周辺地区での拠点施設整備事業を活性化計画の目玉として位置付け、一定の集客力のある「小野川周辺地区」「本宿耕地地区」と「佐原駅周辺地区」の相互連携を高め、中心市街地にさらなる人の流れを生み出すことを目指した施設整備を行うこととしています。

また、本格的な少子・高齢社会をむかえ、都市の外延化・居住地の郊外部への拡大指向から、都市的なサービスや社会資本ストックの充実したまちなか居住への回帰の指向が強くなりつつあることから、香取市中心市街地においても、豊かな歴史的資産や商業機能、公共・公益施設等の生活サービス機能の集積した市街地の活性化を一体的に推し進め、高齢者から子ども達までが、まちなかに安心して楽しく住み続けることのできるまちを実現します。



香取市ガイドブックより

# 3. 事業対象地周辺の状況と本事業の位置づけ

## 3-2 事業対象地の状況

### ① 周辺土地利用の状況

事業対象地は香取市中心市街地に立地し、佐原駅から至近の距離にある敷地面積約6,600 m<sup>2</sup>の土地であり、このうち約5,600 m<sup>2</sup>は本事業のため、平成25年に新規に取得し、約1,000 m<sup>2</sup>は香取市の遊歩道を活用するものです。

取得した約5,600 m<sup>2</sup>の土地は、旧清見屋(百貨店)の跡地として規模が大きく、平成16年の閉店以降は未利用地となっていることから、佐原駅前周辺地区の活性化における課題となっています。

### ② 周辺土地利用の状況

事業対象地は、商店街(佐原駅前商店街振興組合)の中に位置しており、周辺には各種商店が立地しています。中活計画では、これら佐原駅前の商店街の活性化の重要性が指摘されており、活性化に向けた各種取組みが行われている状況にあります。

### ③ 交通アクセス等の状況

事業対象地から約250m(徒歩3分)の位置に佐原駅があり、駅前には路線バス、市循環バス、高速バスのバス停、タクシー乗り場もあることから公共交通の利便性は高い。また、事業対象地の北側にはJR成田線が通っており、市道との交差部には東関戸踏切があります。

### ④ 法規制の状況

事業対象地の都市計画上の用途地域は「商業地域」であり、容積率の上限は400%、建ぺい率の上限は80%となっています。また「準防火地域」に指定されているため、延面積が1500平方メートルを超える建築物、あるいは4階建て(地階を除く)以上の建築物については耐火建築物とする必要があります。

### ⑤ その他(景観)

右図に示すように、佐原駅から事業対象地にアクセスする場合、道路(主要地方道佐原停車場線)の真正面に事業対象地が位置していることから、建築等の計画にあたっては道路からの眺めに配慮することが重要となります。



# 3. 事業対象地周辺の状況と本事業の位置づけ

## 3-3 中心市街地周辺との連携と一体化

佐原駅から計画地に至る商店街周辺は、計画地の複合公共施設と連携補完しながら駅周辺の賑わいゾーンとして整備します。



## 4. 基本方針とコンセプト

### 4-1 複合施設が果たすべき役割と効果

人々が集い、暮らし、交流するまちをめざす「香取市の新たな顔」として、複合施設が、以下に示す基本的な役割を果たすことにより、「中心市街地活性化への起爆剤となる拠点」として、中心市街地はもとより、周辺地域との連携により香取市全体の活性化への貢献を目指します。

1. まちの賑わいを創出する多彩な機能の複合施設
2. 市民生活の質的向上に積極的に貢献できる施設
3. 市民も観光客も快適に利用できるまちなか交流スペース
4. 環境共生や防災面に配慮した安心安全な防災拠点性の確保
5. 施設の複合化によるメリットが最大限発揮できる事業フレーム
6. 公民連携の整備運営で香取市の誇りとなるまちのシンボル施設

## 4. 基本方針とコンセプト

### 4-2 整備の基本方針

多機能複合による施設の魅力向上と公民連携による生活利便性の向上を図り、香取市の新たなシンボル施設として幅広い人々の利用を想定します。

#### 《複合公共施設の効果を最大限発揮する仕組》

生活支援機能の充実による多彩な「生活創造力」の向上



*Quality of Life*



多機能複合による施設魅力の向上

公民連携による生活利便性の向上

香取のシンボル

*Amenity of Town*



快適な交流空間の創出による「都市集客力」の向上

## 4. 基本方針とコンセプト

### 4-3 基本理念とコンセプト

#### 【基本理念】

人々が集い、暮らし、交流する「賑わいのある香取市のまちづくり拠点」を整備

香取市民の誇りとなる多彩な魅力を持つ「まちなか交流拠点」

# KATORI

## CIVIC

子どもから高齢者まで、日常の生活に必要な様々な支援機能を集約して、市民のクオリティオブライフの向上を実現



CIVIC: 市民の

## JOY

日々の生活に感動と喜びを創造するライフエンターテインメント



JOY: 喜び、歓喜、幸福

## TERRACE

自然環境を活かし、安全で快適な環境で多彩な交流を育む魅力的な空間を演出



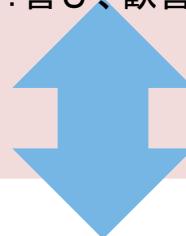
TERRACE: 段状広場、段庭

～生活演創広場～

# 香取シビック・ジョイテラス

暮らしを総合的にサポートする生活創造機能の集積

市民が集い交流を促進する快適な憩いのオアシス



香取市の各地域(佐原、小見川、山田、栗源)とのネットワーク連携

# 5. 導入機能の検討

## 5-1 整備方針

人びとが集い、暮らし、交流する、賑わいのあるまちづくりの拠点の実現のため、以下の5つの整備方針を定めます。

地元住民の生活サービス施設の集積

交流と賑わいを促進する施設の集積

### 1. 交流の拠点

子ども、学生、お年寄りなど幅広い世代、様々な立場の人が集い、交流し、それぞれの時間を過ごすことのできる場

### 2. 集客の拠点

香取市の顔として、市内外へ情報発信するとともに、市内外から人を集め、市内各地域への起点となり、回遊させる場

### 3. 魅力創造の拠点

香取市の新たな魅力や価値観を創造するとともに、中心市街地の賑わい創出をリードする場

### 4. 生活支援の拠点

子育て世代や高齢者など、まちなかで生活する多様な人々に役立ち、商工業者の営みやコミュニティ活動をサポートする場

### 5. 学び・育成の拠点

香取市の文化、歴史を学ぶことができ、人が成長する豊かな地域資源を活用し、地場産業を育成する場

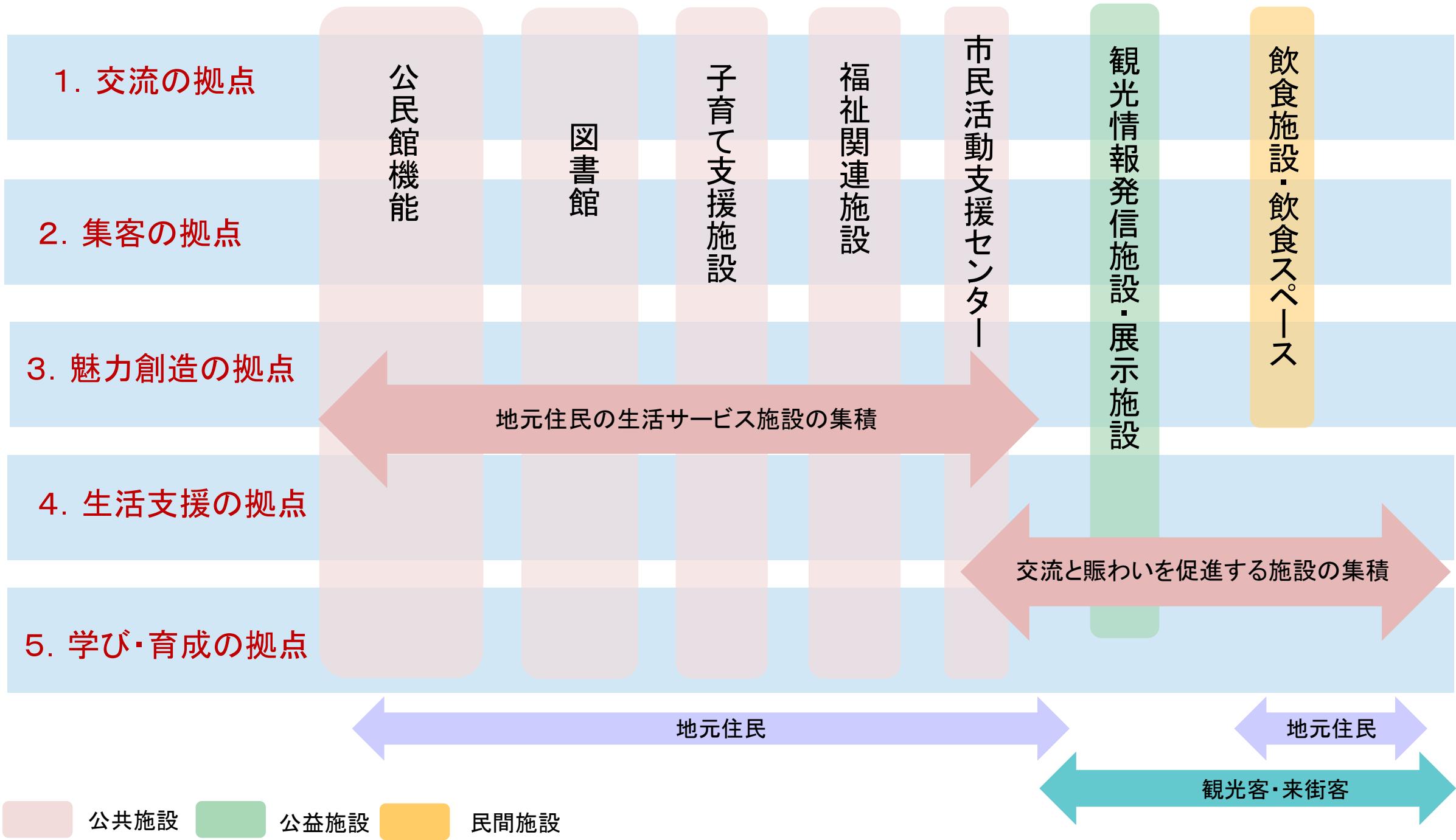
# 5. 導入機能の検討

## 5-2 導入機能の基本的な考え方と施設構成

本施設は、商業機能や公共・公益施設等の生活サービス機能の集積した市街地の活性化を一体的に推し進め、市内・市外から人を集め、中心市街地に賑わいを創出するとともに、高齢者から子ども達までが、まちなかに安心して楽しく住み続けることのできるまちを実現することを目的とし、文化・教養、福祉・健康、観光、交流などの機能を導入します。  
また、5-1で示した5つの整備方針に基づき、施設構成を以下のとおり想定しています。

5つの整備方針

5つのテーマで「人々が集い、暮らし、交流する、賑わいのあるまちづくり」拠点の実現



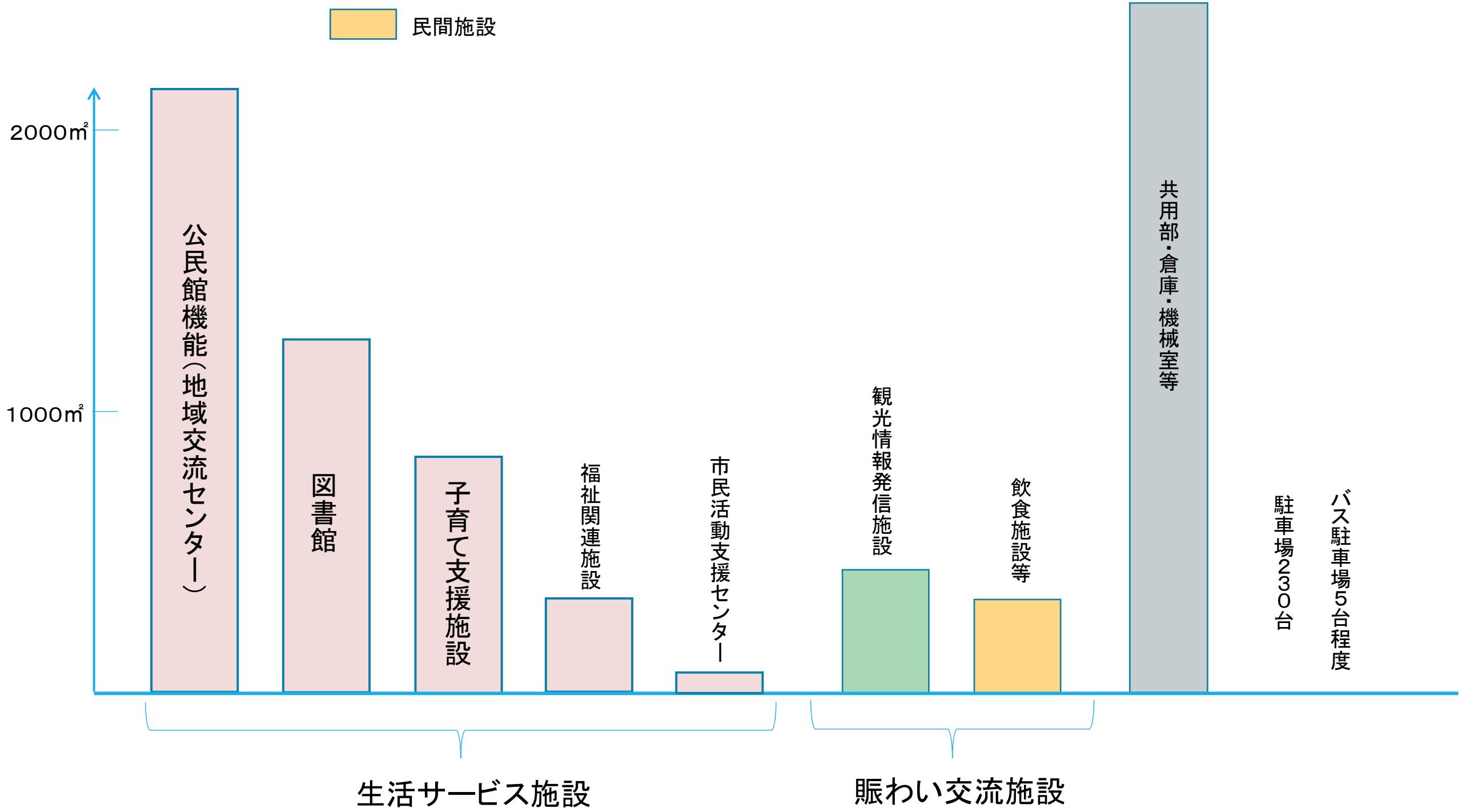
# 5. 導入機能の検討

## 5-3 全体想定面積

施設に導入する機能と想定する利用者数等を踏まえ、全体の想定面積を以下のとおりとします。

- 公共施設
- 公益施設
- 民間施設

全体施設面積として約8,000㎡を想定  
なお、各施設面積は現段階での想定面積で、今後の検討で変更する可能性があります。



# 5. 導入機能の検討

## 5-4 各施設面積と利用者数の想定

各施設の諸室及び機能別面積は表1のとおり設定します。また、公民館や図書館については、既存利用者や今後見込まれる貸館の新規利用者等を見込むとともに、観光情報発信施設、福祉関連施設や子育て支援施設については、市内類似施設の利用状況などから、全体として概ねの想定利用者数を表2のとおり設定します。

(表1 各施設面積)

機能	項目	面積	機能別面積		
観光情報発信施設	観光案内・特産展示スペース	300㎡	450㎡		
	交流ラウンジ・ロビー	150㎡			
図書館	開架式書庫(一般)	300㎡	1,290㎡		
	開架式書庫(児童用)	100㎡			
	参考図書・事典・辞書・お勧め本書架	90㎡			
	郷土資料室	54㎡			
	新聞雑誌閲覧室	70㎡			
	読み聞かせ室・児童用イベント室	72㎡			
	閲覧席	120㎡			
	カウンター兼作業室	90㎡			
	レファレンスカウンター	20㎡			
	除籍用書庫(閉架式書庫)	100㎡			
	郷土資料室書庫	54㎡			
	学習スペース(90席)	180㎡			
	事務室	40㎡			
	子育て支援施設	遊戯室・屋内多目的広場		440㎡	850㎡
		地域子育て支援センター交流室		120㎡	
集会室		120㎡			
創作活動室		50㎡			
相談室・静養室		20㎡			
乳幼児用トイレ		30㎡			
授乳室		20㎡			
事務室		50㎡			

機能名称	想定利用者数
公民館(貸館機能)	9.5万人
図書館	3.5万人
福祉関連施設	2.5万人
子育て支援施設	1.5万人
市民活動支援センター	0.2万人
観光情報発信施設	10.0万人
合計	27.2万人

(表2 想定利用者数)

機能	項目	面積	機能別面積
公民館機能(地域交流センター)	多目的ホール(防音)可動式観覧席付	250㎡	2,185㎡
	視聴覚室(防音)	152㎡	
	創作室	120㎡	
	調理実習室	143㎡	
	和室1~3(60㎡×3室)	180㎡	
	研修室1~4(80㎡×2室、60㎡×2室)	280㎡	
	IT研修室	60㎡	
	多目的スペース	300㎡	
	音楽練習室1~2(25㎡×1室、15㎡×1室)	40㎡	
	展示スペース	300㎡	
	備品倉庫	300㎡	
	事務室	60㎡	
福祉関連施設	相談室1~3(15㎡×3室)	45㎡	340㎡
	ボランティアセンター	50㎡	
	書庫・書庫	95㎡	
市民活動支援センター	事務室	150㎡	45㎡
	事務室	45㎡	
テナント施設	飲食店等	350㎡	350㎡
共用部等	共用部・倉庫・機械室等	2,480㎡	2,480㎡
全体面積合計		7,990㎡	

# 6. 施設機能の概要

## 6-1. 施設機能の特徴とイメージ

### (1) 観光情報発信施設

#### 観光案内・特産品展示スペース [想定面積300㎡]

##### 〈施設概要〉

本施設は、基本理念である「人々が集い、暮らし、交流する賑わいのあるまちづくりの拠点」として、「香取市全体の観光振興」に資することが求められています。

香取市域には、中心市街地以外にも各地域の特性に根差した多様な資源が点在しており、これらの資源を活かした市民主導による“まちづくり活動”や「市全体の観光振興」「市民交流の促進」を目指した官民協働の取り組みが行われています。本施設には、これらの活動を通じての郷土意識・一体感の醸成とともに、中心市街地における「水の郷さわら」や小野川周辺地区との連携の強化、回遊性の向上に寄与する役割が求められています。

このため観光情報発信施設では、香取市の玄関口である佐原駅に至近であるという立地特性を活かし、水の郷さわら等の市内各施設と連携・協働を図りながら、香取市全体の紹介を行うこととします。また、市内の各施設や商店街と連携しながら、観光情報・イベント情報を提供するほか、案内マップなどのまちあるきアイテム等の提供により、本市の魅力を発信し、本施設から市内各地への回遊性の向上を図ります。

##### 〈整備コンセプト〉

観光情報、特産品などの展示の他、観光イベントや特産品販売などのイベントを定期的で開催するなどして、来街者が気軽に立ち寄れ、市内の様々な情報に触れることができる交流スペースとして、また、大小のイベントに対応できるようロビーと一体的に使用が可能な開放的なスペースを設置します。



# 6. 施設機能の概要

## 〈利活用イメージ〉

観光案内・特産品展示室では企画展などにより展示内容を少しずつ変更していくことが考えられ、ロビーや多目的ホール、創作室などでは、展示と連動した物販やイベント、体験プログラム等を実施し、相乗効果を図ります（例えば、栗源地区にスポットを当てた企画展示の時は栗源の特産品を販売する、伝統芸能にスポットを当てた企画展示の時は「多目的ホール」で伝統芸能の体験プログラムを実施する、など）。



●旅の相談コーナー



●ギャラリー

- ★加工食品、工芸品等の展示・販売
- ★工芸品等の実演販売【イベント】
- ★季節に合わせた農産物販売【イベント】
- ★映像による観光施設・観光イベントの紹介による各地域への誘導



※写真は全てイメージです

# 6. 施設機能の概要

## 観光案内・特産品展示スペースの参考事例

### 参考事例：観光情報の案内所（京なび）

京都府と京都市が京都駅に設置した観光案内所で、観光案内や宿泊施設の紹介、チケットの販売など様々な観光サービスを提供している。相談カウンターにて、京都で旅行者が楽しむための様々なニーズにきめ細かく対応している。

主なサービス:

- 1. 観光案内、相談、窓口案内、電話案内  
(日本語、英語、中国語、韓国語、朝鮮語に対応)
- 2. 観光情報発信  
観光パンフレット等の提供等による情報発信  
企画展示等による戦略的なPR  
IT技術を活用した電子ポスターや多言語による情報発信
- 3. 観光関連チケット販売  
公共交通の乗車券や催事のチケット等の販売
- 4. 宿泊施設の紹介・斡旋



●パンフレットコーナー



●旅の相談カウンター

### 参考事例：土産物の販売コーナー（越中八尾観光会館）

施設エントランスの近くに、床面積20㎡程度のお土産コーナーが設けられており、お祭関連グッズ(カレンダー、絵葉書、手拭等)、地域の特産品が販売されている。

また販売コーナーの反対側のロビー内には別途、机を出して土産物が並べられている。本例のように、ロビーなどの共用空間を利用して販売スペースを臨時的に拡張することも考えられる。



●土産物の販売コーナー



●ロビー内の販売コーナー



●カレンダー



●絵葉書

●お祭関連グッズ

# 6. 施設機能の概要

## 交流ラウンジ・ロビー 【想定面積150㎡】

### 〈施設概要〉

市民アンケートなどでも駅周辺での飲食や休憩のできるスペースへの要望が多くあることから、市民や来街者の憩いの場として、飲食が可能なスペースが施設内に必要となります。また、開放的な休憩スペースと連携したオープンカフェの実施や、観光情報発信施設と連携した朝市・フリーマーケット等のイベントを休日などに開催し、集客力の向上を図ります。なお、イベント時には、商店街や各地域の施設等と連携を図りながら開催し、賑わいの創出に繋がります。

### 〈整備コンセプト〉

市民の交流と観光客の休憩を兼ねた軽飲食スペースとして、中高生からお年寄りまでが気軽に利用できる市民交流・歓談スペース、観光客の休憩、バス待ちのためのスペースとして椅子、机を配置します。また、屋外に面して配置することで、オープンカフェとしての一体的な活用や軽飲食の提供・サービススペースによりコーヒーやお茶等の軽食の提供サービスが行えるような簡易な調理設備を配置します。

なお、屋外に簡易な遊具やベンチ、植栽等を設置し、通常時には、子育て支援スペースと連携しながら子ども達が安心して遊べる公園としても活用します。

### 〈利活用イメージ〉

- ★市民の交流と観光客の休憩を兼ねた軽飲食スペース
- ★子育て世代の交流・歓談(本施設の広場で子供が遊んでいる間、親同士が歓談・交流)
- ★ロビーコンサートの開催など、市民が気軽に発表などを行うスペース

### 【快適なロビー・休憩スペース】

- 吹抜の休憩スペース
- ワークショップスペース



●イベントスペース

●コミュニティスペース



### 【屋外イベント広場】



●イベントスペース



●ストリートギャラリー

# 6. 施設機能の概要

## 交流ラウンジ・ロビーの参考事例

### 参考事例：ふれあい喫茶（野田市櫛のホール）

中心市街地の活性化と生涯学習の拠点として整備された複合施設。ふれあい喫茶は障害者の就労移行支援事業の一環として経営する軽飲食の喫茶。



●交流ラウンジ



●複合施設の外観

### 参考事例：多世代交流ロビー（稚内地域交流センター）

市民の集会や様々なイベントの開催など地域のふれあいの場として気軽に利用されているコミュニティ施設。



●情報サービススペース



●交流ロビー

### 参考事例：多世代交流ロビー（ベルブ永山）

子どもから高齢者まで様々な世代が自由に交流できるスペース。ロビーでは軽飲食ができるカフェが併設され、読書・打合せに活用されており、週末はミニコンサートなどのイベントが開催されている。



●市民情報サービススペース



●カフェスペース



●交流ラウンジ

## 6. 施設機能の概要

### (2) 図書館 [想定面積1,290㎡]

#### 〈施設概要〉

図書館は、読書施設であり、調査研究施設でもあります。そして、全ての国民に憲法で認められた“知る権利”“知る自由”を保障する役割を担っています。

また、それだけではなく、近年は市民の交流、憩いの場所としての側面にも注目が集まり、地域活性化の拠点としての期待も高まっています。移転にあたり、複合施設としての利点を十分に活かし、施設内の他の部門との連携を強化することで、従来にない新しい図書館サービスを展開します。

新しい図書館では、「心が安らぐ魅力の空間づくり」を基本に、人と本、人と知識、人と情報を結び、更には人と人との繋がりとなることをその目的としています。

そのために、過去と現在、そして未来を繋ぐ、香取市の情報発信とネットワーク拠点となると同時に、多くの市民が訪れることで心が安らぎ、長時間利用したくなるような魅力的な環境を提供します。

また、様々な世代の市民が出会い、交流することによって、それぞれの可能性を広げる場所でもあり、ユニバーサルデザイン（みんなが快適に利用できるよう製品や環境などを設計すること）の考え方に基づいて、次の三つの視点から、年齢性別を問わず、誰もが気軽に利用できる図書館となることを目指します。

#### 〈整備コンセプト〉

##### ①開放的で親しみのある空間

照明はLEDを使用する等してより明るくし、また、他の部門と重複する機能や、共有するオープンスペースの有効活用により、開放的で親しみのある空間を提供します。併せて、館内の案内や掲示物など、利用者にとってわかりやすく、使いやすい工夫をします。

##### ②誰でも気軽に利用できる空間

従来の図書館は“学生が勉強する場所”というイメージでした。新しい図書館では、自習室を別に設けることにより夏休みや試験期間の混雑を回避し、また、施設全体でバリアフリーへ対応することで、年齢性別を問わずに誰でも気軽に訪れ、利用できるやさしい環境をつくります。

##### ③長時間利用型の読書施設

施設内にカフェ等を併設するとともに、飲食可能なオープンスペースを設けることで、遠方からの来館者も長時間の利用を可能とします。また、市民サービスの向上のために、開館時間の延長を目指します。

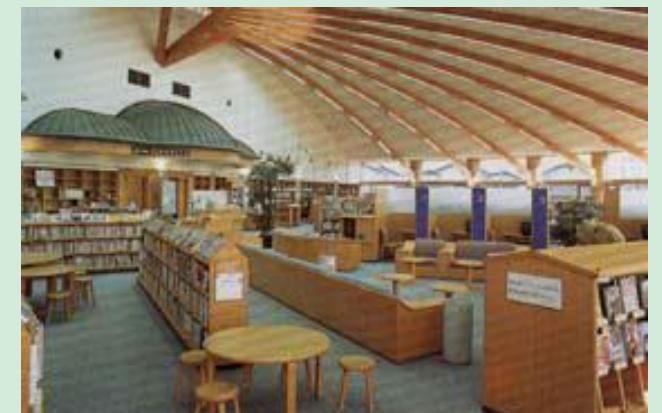
#### 【地域に開かれた快適な図書館】



●誰もが気軽に利用できる図書館



●快適に利用できる読書コーナー



●開放的で親しみのある書架スペース

# 6. 施設機能の概要

図書館の主な機能としては、

①開架書架

防災、防犯面や使い勝手を考慮した安全性の高い低書架を設置し、年齢、性別を問わずに利用しやすい配置にします。

②閲覧スペース

新聞雑誌閲覧室のほか、60席程度の閲覧スペースを設けるとともに、図書館内各所にゆったりとして明るく快適な空間で、くつろいで読書のできるスペースを確保します。

③自習スペース

遮音性を確保した自習スペースを別に設けることにより、夏休みや試験期間における利用者の競合を防ぎます。

④親子のための児童スペース

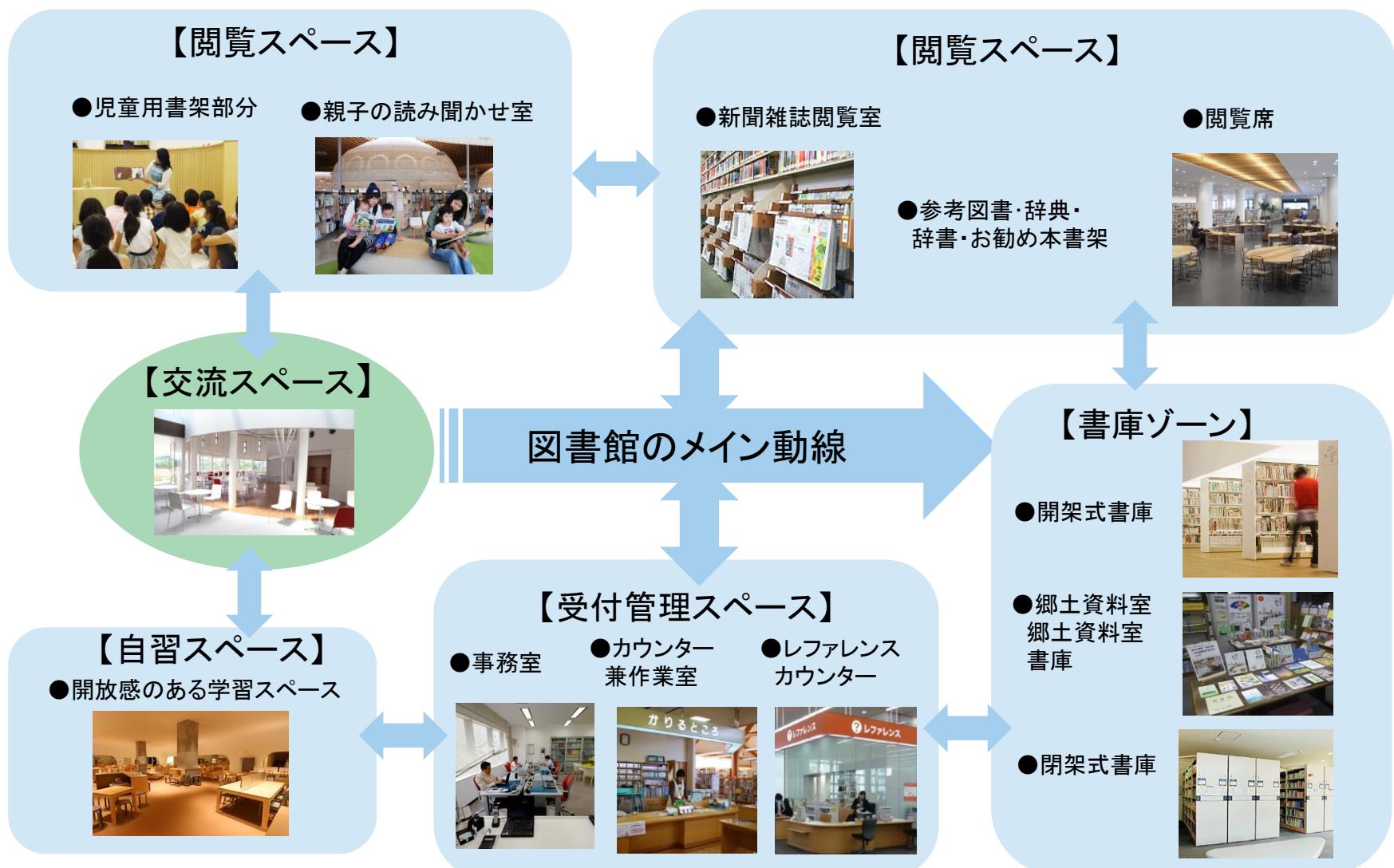
適度な遮音性を確保し、乳幼児を連れた保護者が気兼ねなく楽しく来館、利用できるよう配慮します。

⑤気兼ねなく利用できる読み聞かせの部屋

乳幼児向けの読み聞かせの部屋として、遮音性を確保し、仕切られた空間で、安全性を考慮したスペースを配置します。

⑥合理的な受付・管理スペース

貸出、返却、予約とは別にレファレンスサービスを受け付ける司書用の窓口を用意し、定期的な本の入れ替えや古くなった資料を保存、整理するために必要な十分なスペースを確保します。



# 6. 施設機能の概要

## 〈利活用イメージ〉

### ①市民ひとりひとりの学びを支えます

話題の新刊から古典的な名作まで幅広く取りそろえ、利用者の多様なニーズに対応します。

また、利用者の調査研究のお手伝いをする事で生涯学習の意欲を高めます。そのために県内外の図書館との連携を継続します。

#### ア. 多様な情報提供手段

インターネットに接続された端末、無線LAN、Wi-Fi、商用データベース、電子書籍等、図書館＝本＝紙という固定観念にとらわれず、様々な媒体による最先端のサービス導入を進めます。

#### イ. 香取市読書施設の中核館としての機能

市内の読書施設をネットワークで繋ぎ、情報のみならず、資料そのものをやりとりすることで、市内全域をカバーした図書館サービスの更なる強化を図ります。

### ②郷土の歴史や文化を支えます

郷土資料を収集、整理、保存により、郷土史の調査研究に役立てます。また、大学や研究機関との連携を図り、より専門的な知識や情報を提供します。

ア. 郷土の歴史や地域文化、伝統芸能などに関する資料や情報を積極的に収集し、市内外に発信します。

イ. 従来所蔵している郷土資料の整理、保存、活用に加え、関連部署や在郷の郷土史家とも協力、連携し、香取市に關係する貴重な資料の調査を支援し、情報の集積を図ります。

### ③子育てを応援します

福祉施設や教育施設と連携して、図書館の資料や豊富な司書の知識を、学校や家庭における子どもの読書活動や調べもの学習などに役立てるとともに、次世代を担う子どもたちの豊かな感性を育てるために読書啓発事業を展開します。

ア. 児童サービスに係る図書館の機能を十分に活かして、子どもと保護者がゆっくりと向き合える場を提供します。

イ. 乳幼児を連れた保護者の方の来館にも配慮し、乳幼児から読書に親しむ環境を作ります。

ウ. 学校と連携し、児童・生徒の居場所をつくと同時に、読書を通じて情緒を育み、青少年の健全な成長を支援します。

### 【多様な生活創造情報の提供】



●最先端の情報提供サービスを導入



●香取の歴史と文化を発信する



●子どもたちの豊かな感性を育む

# 6. 施設機能の概要

## 図書館の参考事例

### 参考事例：街並みとの連続性に配慮し、4つの吹き抜けを点在させて配置（塩尻えんぱーく）

「知恵の交流を通じた人づくりの場」の実現を基本コンセプトに、5つの機能で構成されている。図書館、子育て支援・青少年交流、シニア活動支援、ビジネス活動支援、市民活動支援で、これら各分野の機能が単に集合しているだけではなく、各分野を融合したサービスを提供することで、利用者により活発な交流が生まれることを目指している。



●街角に開かれたフリースペース



●ゆとりのある交流ペース



●仕切りのないフレキシブルな空間

### 参考事例：人々の交流を促進する多彩な機能を集約させた複合型図書館（武蔵野プレイス）

図書館をはじめとして、生涯学習支援・市民活動支援・青少年活動支援の4つの機能を併せ持つ施設です。人々の交流が自然に生み出される場を提供し続けることにより、生活・文化・芸術・自然・まちづくり・ボランティア活動・市民活動・生涯学習・福祉・教育などといった横断的な活動やネットワークの活性化を促している。



●前面の憩いの広場では様々なイベントを開催



●マガジン書架と一体化したライブラリーカフェ



●開放感のある明るい閲覧スペース

# 6. 施設機能の概要

## (3) 子育て関連施設（子育て支援センター・児童館） 想定面積〔850㎡〕

### 〈施設概要〉

子ども子育て支援に関するアンケート調査によると、香取市で子育てをしやすいと思わない理由にあげられるなかで「子どもの遊び場が少ない」との回答が最も多い状況です。こうした市民の高いニーズに対応した、季節や天候に関わらず、子どもを遊ばせることができる屋内の遊び場を整備することが求められています。

子育て支援機能は、子どもたちがのびのびと、天候に関係なく遊べる遊び場として機能するとともに、子育てに関する情報の交流、相談が行なえる機能をあわせ持つ施設を設置することにより、子育て環境の充実強化を図ります。

### 〈整備コンセプト〉

『安心して遊べる、子育て相談や交流ができる場所』

子どもの遊び場は、将来を担う子どもたちが天候に左右されず、全身を使ってのびのびと遊べるのが重要であり、主に乳幼児から小学校までの児童を中心とし、それぞれの年齢にあった遊具等を整備します。また、子育てに関する様々な相談・情報交換が行える場を整備します。



### 【地域子育て支援センターゾーン】



●天候に関係なく遊べる場と子育てに関する情報の交流・相談スペース



### 【児童館ゾーン】

●総合的な子育て支援の場



●親子の触れ合いスペース

# 6. 施設機能の概要

## 〈利活用イメージ〉

### ①子育て支援センター

#### ◎乳幼児ゾーン(6歳未満)

##### ア. 交流室(ひよこルーム)

子ども同士が遊ぶのを見ながら情報交換、交流できるスペース

##### イ. 乳幼児用トイレ

安心して使える乳幼児用トイレ。

##### ウ. 授乳室

乳幼児を連れて訪れる方が安心して授乳できるスペース。

##### エ. 多目的スペース(キッズ広場)

仕切りのないオープンスペースで構成し、屋内の公園的な場所を提供します。子育てに関する情報閲覧コーナーを設置します。

### オ. 子育て相談室

安心して子育てができるよう支援するための各種相談がプライベートに配慮した空間で行えます。

### ②児童館ゾーン(小学生を中心に18歳まで)

#### ア. 遊戯室・集会室

行事や親子教室など、みんなで集まり楽しむ場所や身体を存分に使い、親子一緒に遊べるような遊具を配置します。子供が挑戦したいという気を引くような遊具を配置します。

#### イ. 創作活動室

子どもたちの創作意欲のわく工作スペース。



# 6. 施設機能の概要

## 子育て関連施設の参考事例

### 参考事例：茅野市こども館（こども館0123広場）

0～3歳を中心とした就園前の子どもと子育て中の家族が、いつでも自由に遊べる屋根付きの公園。あそびの広場、わいわいスペース、絵本コーナー、おひるねコーナー、もぐもぐコーナー、子ども用トイレ・手洗いなどがある。



●開放感のある遊びの広場



●大型遊具もあるわいわいスペース



●幼児用の安心安全な遊具

### 参考事例：紫波町オガールプラザ（子育て支援センター）

子育てを行う親子などを対象に、交流の場を提供するとともに子育てに関する事業を総合的に推進するための施設。就学前のお子さんを対象とした子育て支援事業、一時預かり保育、放課後児童クラブの3つの柱で子育てを応援している。



●天井高の高いゆとりのある遊戯室



●屋外の遊戯スペース



●年齢に即した各種の遊戯施設

# 6. 施設機能の概要

## (4) 社会福祉関連施設（社会福祉協議会） 想定面積 [350㎡]

### 〈施設概要〉

子どもから高齢者まで誰でも地域で生き生きと自立した生活を送るための地域福祉の拠点として、「こころのふれあいまち」をテーマに、地域に密着した福祉サービスや、支援等を行います。また、ボランティア活動などを通じ、皆で支えあい、学びあい、誰もが福祉活動に参加し、一人ひとりがより豊かに地域で共に生きる社会をめざし、様々な活動に取り組めます。

### 〈整備コンセプト〉

事務室や相談室のほか、車いす等の福祉用具の保管スペースを設置します。また、社会福祉協議会が実施する各種事業においては、公民館機能で設置する会議室、調理室、多目的スペースなどを活用することで、複合施設のメリットを最大限活かし、効率的な施設運用を図るとともに、様々な福祉サービスを求める市民が気軽に相談に訪れることができるような施設とします。

### 〈利活用イメージ〉

★社会福祉協議会が実施する施策と市の施策の有機的な連携を図る施設として活用

★自治会をはじめとした市民やボランティア団体、NPO法人などとの交流により、地域の絆を深め、地域が育む子育てや見守り活動の等の地域福祉を進める場としての活用

地域福祉事業（イベント開催など）、ボランティアセンター、介護支援（高齢者・障害者）、外出支援サービス、福祉サービス、日常生活自立支援事業、貸出（車いす・ベッド等、高齢者疑似体験セット）、相談事業・生活福祉貸付金事業など

### 【地域に密着した福祉サービス施設】



●事務室



●福祉サービス説明会



●ホール



●相談室



●地域福祉事業



●交流スペース



●ボランティアセンター

# 6. 施設機能の概要

## 社会福祉関連施設の参考事例

### 参考事例：様々な生活支援サービス機能を複合した総合福祉センター（文京福祉センター）

様々な生活支援サービス機能を複合した総合福祉センターで、福祉センター・子育てひろば・障害者支援施設などで構成されている。福祉センターは、1. 事務所、健康相談室、ラウンジ。2. 学習室、トレーニングルーム、リフレッシュルーム、浴室。3. 貸室（視聴覚室、地域活動室、料理教室、多目的室）で構成されている。



●エントランスロビー



●地域活動室



●交流ラウンジ

### 参考事例：様々な人々に福祉の場を提供する福祉センター（安城福祉センター）

高齢者、身体障害者、児童、母子、父子など各種福祉サービスの場を提供。主な施設として、身体障害者福祉センター、療育センター、老人福祉センター、介護予防事業、児童センター、母子・父子福祉センター、社会福祉センター、中央地区社会福祉協議会、心配事相談・福祉法律相談・子供生活相談などで構成されている。



●3層の建物に福祉関連施設を集約



●多目的ホール



●会議室・訓練室

# 6. 施設機能の概要

## (5) 公民館的機能 (地域交流センター) 想定面積 [2, 185㎡]

### 〈施設概要〉

公民館機能は、社会教育・生涯学習はもとより、文化、芸術、環境、福祉、観光など様々な場で活躍する市民が、心豊かに、うるおいのある社会生活を送るための支援の場所として、育児を行う親たちの学びやふれあいの場所として、ボランティア活動のための支援の場所として利用されなければならないと考えます。

このような考え方を基に、「市民が主役となって活動する施設」を基本に市民の様々な文化活動を支援し、様々なイベントの参画を通じて、楽しみながらコミュニティーを育成する「人材交流と育成スペースとして」整備します。

### 〈整備コンセプト〉

本施設内に配置する観光情報発信施設、子育て関連施設、福祉関連施設などの施設との連携や設備の共有化を図ることで、諸室の稼働率の向上や整備の効率化を図ります。

### (主な機能)

#### ア. 多目的ホール(大会議室)

文化・芸術活動の練習・発表・展示会場等として活用可能なホールとしても活用できる会議室とします。様々な利用が想定されるため、一部座席は電動式とし、通常時は座席を収納できるようにすることで、広い空間を確保 (例えば、机を使用した会議などに使用)。

また、各種イベント(講演会、演奏会、発表会等)の開催を想定することから、施設内には舞台設備(ステージ、照明、PA等)のほか、下座の練習会場や演奏会場等としても使用可能なように、防音機能を設ける。

### 【多様な人材交流と人材育成スペースの共有化】



●多目的ホール (大会議室)

創作室

和室



●展示スペース

調理室

視聴覚室

研修室

音楽練習室



●多目的スペース

# 6. 施設機能の概要

## 〈利活用イメージ〉

〈日常的な利活用(想定される例)〉

- ★伝統文化・芸能(下座連による佐原囃子、手踊り等)や、ダンス・合唱・演奏などの市民団体の練習会場

〈イベント時の利活用(想定される例)〉

- ★伝統文化・芸能や、ダンス・合唱・演奏などの市民団体の発表会の会場
- ★観光客向けの、伝統芸能の演奏体験・鑑賞プログラムの会場
- ★書道や絵画等の市民サークルの展示会・展覧会の会場
- ★地域物産展、フリーマーケット等の物販イベントの室内会場 等

### イ. 創作室

陶芸などの活動のほか、工作などの体験学習にも利用可能な部屋とします。

設備としては、製作台を備え、陶芸窯や保管棚のほか、水回りなどの必要な設備を配置します。

### ウ. 調理室

食育や一人暮らし高齢者を対象とした料理教室など、食を通した様々な活動が可能な部屋とします。また、調理後の飲食を通した交流も大切であり、他の貸館との連携についても配慮します。

設備としては、調理台を備え、最新の調理設備を配置するとともに、収納棚などの必要な設備を配置します。

- ★香取市特産品食材を使ったイベントとの連携
- ★伝統的な郷土料理の講習会場

### エ. 研修室 4室(1室は防音設備)

会議やセミナーなどでの利用のほか、各種サークル等で、様々な利用ができるような研修室を設置します。また、音楽や軽体操などの活動に対応し、防音性の高い研修室も設置します。

## 【市民が主役の多彩なイベントの開催スペース】



●伝統芸能の練習会場



●市民団体の練習会場



●趣味サークルの活動



●伝統文化の継承



●郷土料理の教室



●親子の触れ合いの場

# 6. 施設機能の概要

- ★ 主催講座・教室の開催
- ★ サークル活動など、市民の学習の場としての活用
- ★ 学習成果の発表の場としての活用

## オ. 和室 3室

詩吟や習字、茶道など文化系の活動が可能な部屋とします。  
設備としては、和の雰囲気配慮したつくりとし、茶室として活用できる機能を備えることとします。  
また、各種講演会や講習会においては、講師の控室などとしての利用も想定されることから、他の貸館との配置について配慮します。

## カ. 視聴覚室・音楽練習室

プロジェクターを使用した会議・研修などの利用のほか、防音機能を施し、サークルの音楽練習や比較的小さな部屋を設けることにより個人の音楽練習などができる部屋とします。

## キ. 多目的スペース

各種講演会や講習会、セミナーなどの多人数での利用のほか、ヨガやダンス、健康づくりなど、軽運動系の活動が可能な部屋とします。  
設備としては、快適性・利便性を重視したつくりとし、天井を通常より高くすることを検討するほか、スクリーンやマイクなどの音響設備や簡易な防音対応、軽運動などに対応した床仕様、鏡の設置など、市民活動の幅が広がるような設備とします。

また、最大で300㎡程度の空間とし、可動式間仕切りなどで柔軟な使い方が可能となるようなつくりとします。

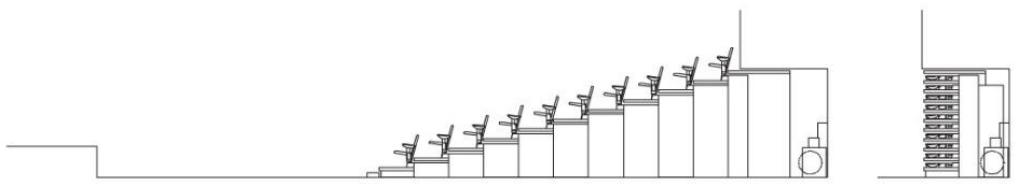
- ★ダンスや軽体操に使用
- ★高齢者の日常的な運動機能の向上を目的とした筋力トレーニングを行い、介護予防の取り組みとして運動機能を向上させて、「寝たきり」や「閉じこもり」を予防します。
- ★子育てサークル等の活動場所

## ク. 展示スペース

廊下など共用部分を活用したオープンスペースに可動式展示パネル等を設置し、書道展、絵画展、写真展などの市民の様々な活動の発表の場として整備する。

### 様々な市民活動に利用できる大会議室

RCS本体が専用スペース内部に収納されるタイプで、建築壁面と同一面に収まりますので、安全で美しい室内環境です。



# 6. 施設機能の概要



# 6. 施設機能の概要

## 公民館的機能（地域交流センター）、多目的ホールの参考事例

### 参考事例：市民ニーズにきめ細かく対応した公民館（川口市並木公民館）

老朽化した公民館を建て替えたもので、大型ホールは可動式椅子246席と収納式ステージがあり、体育ホールとしての他講演会等の利用も可能。その他、会議室2室、料理実習室、ミーティング室、講座室2室、和室2室、視聴覚室などを併設している。



### 参考事例：阿波踊りの上演、踊りの体験教室を開催（阿波踊り会館）

阿波おどりの歴史を紹介する「阿波おどりミュージアム」や、踊りの実演が見られる「阿波おどりホール」、踊りの練習や打合せに使える「活動室」などがある。「阿波おどりホール」は250人収容のホールで、昼は施設の専属連による阿波踊りの上演と踊りの体験教室を行い、夜は地元の有名連による阿波踊りの披露を行っている。



# 6. 施設機能の概要

## (6) 市民活動支援センター [想定面積 45㎡]

### 〈施設概要〉

まちづくり条例は、地域の皆さんで連携しながら「住みやすい地域にしていこう」、「魅力ある地域づくりをしたい」といった活動を自発的に進めていく際に、より取り組みやすくするための仕組みです。この制度により、市は、これまで以上に多様な形で活発化する市民協働による活動を積極的に支援しています。その中で、市民活動支援センターは、住民自治協議会の活動等を支援するため、相談などの窓口となり、関係部署との連絡調整や情報提供などを行います。

### 〈整備コンセプト〉

市民活動支援センターとして、住民自治協議会等への情報提供、相談業務等のほか、印刷機等の利用や作業スペースを設けて、市民協働の拠点として整備します。



### 【市民の自発的活動を総合的に支援するセンター】



●情報資料コーナー



●事務室



●交流スペース



●活動支援相談コーナー



# 6. 施設機能の概要

## (7) 民間（テナント）施設 [想定面積 350㎡]

### 〈施設概要〉

#### カフェ・レストラン

カフェレストランなど飲食施設を提供する施設は市民からの要望も多く、施設を利用する市民の他、来街者に対し地場産の食材を提供する情報発信の場として、市民の憩いの場となるような施設をめざします。

### 〈利活用イメージ〉

- ★気軽に利用できるコミュニケーションスペース
- ★香取地域の食材やメニューが楽しめるレストラン



●郷土料理店

●テイクアウトフードショップ



●開放感のある  
コミュニティーカフェ

# 6. 施設機能の概要

## 民間施設の参考事例

### 参考事例：カフェ（札幌中央図書館）

図書館内に設置され、軽食等の飲食スペースとして利用されている。



●軽食サービスを行うカフェ

### 参考事例：カフェ（札幌中央図書館）

図書館内に設置され、軽食等の飲食スペースとして利用されている。



●開放感のある明るいカフェ

### 参考事例：市民交流の場として活用されているコミュニティカフェ（港南台タウンカフェ）

地元商店街や市民団体が協働で運営を行っているコミュニティカフェ。軽食やドリンクの販売を行うカフェ機能のほか、店内の片隅には貸しギャラリースペースや「小箱ショップ」（レンタルボックスショップ）などがあり、市民交流の拠点となっている



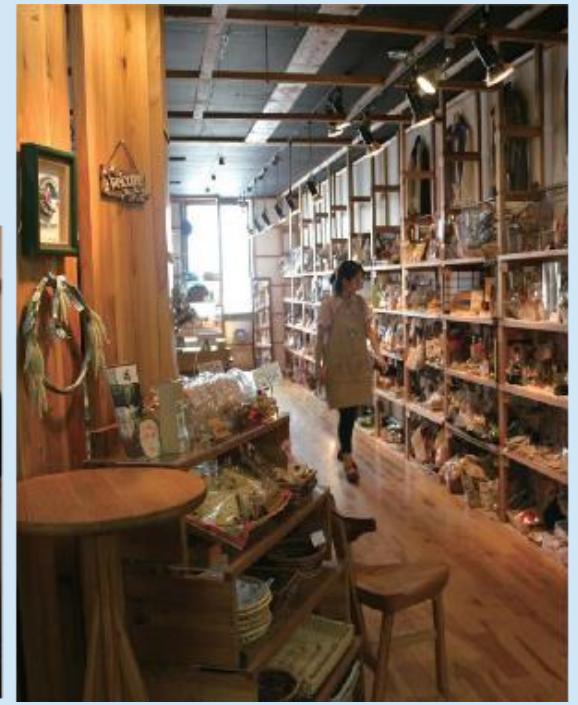
●開放感のある明るいカフェ



●貸しギャラリー



●コミュニティ活動に利用



●レンタルボックスショップ

# 6. 施設機能の概要

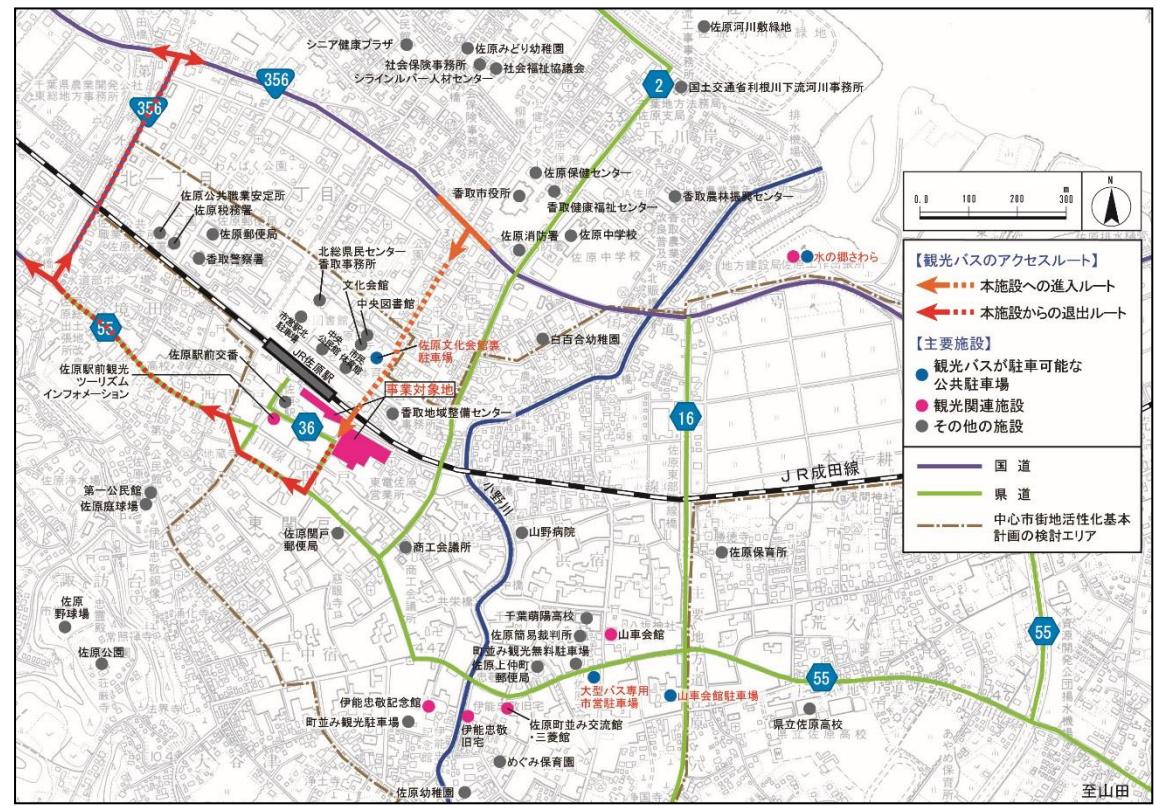
## (8) バス乗降所

### 〈施設概要〉

- ア) 観光客等の乗降のための、大型バスのスペース
  - ⇒待合室は施設の休憩スペースを活用
  - ⇒成田空港からの外国人観光客へ対応するための多言語案内表示
- イ) 市内循環バス、路線バス等による交通手段の確保
  - ⇒来館者の交通手段を確保するとともに、各種バス等の連絡を改善。
  - ⇒公共交通網を検証し、佐原駅南口・北口発着バスの利用なども含めた乗降所の整備。

### 〈利活用のイメージ〉

- ★観光客は本施設でバスを降車し、徒歩、観光船等で小野川周辺や水の郷さわらに向かい、そこでバスに乗車する（もしくは、その逆）ことを想定（その間、バスは「水の郷さわら(※大型22台分完備)」や大型バス駐車場を「山車会館駐車場」など駐車場で待機。）
- ★上記により、本施設と小野川周辺との間を観光客が回遊する必然性を生み出し、周辺の商店街の活性化を図る。
- ★上記にあわせて、観光バスを近接する「佐原文化会館裏駐車場(大型バス3台駐車可能)」等の周辺駐車場へ適切に誘導する仕組みを構築する。
- ★交通事業者等との調整により、鉄道、路線バス、市内循環バス等公共交通のアクセスを改善することで、利用者の交通手段の確保と市内各施設との連携の強化を図るとともに、観光情報発信施設を効果的に活用し、観光客等の市内各地域への誘導を促進する。



■本施設への観光バスのアクセスルート（想定）



<p><b>所要時間</b> 本施設⇒駐車場：約5分 駐車場⇒本施設：約1分</p>	<p><b>所要時間</b> 本施設⇒駐車場：約6分 駐車場⇒本施設：約3分</p>
<p><b>所要時間</b> 本施設⇒駐車場：約7分 駐車場⇒本施設：約4分</p>	<p><b>所要時間</b> 本施設⇒駐車場：約7分 駐車場⇒本施設：約4分</p>

# 7. 敷地利用計画の検討

## 7-1 建設用地の検討

本施設の建設予定地の敷地面積は、6,542㎡となっており、整備に必要な面積は、建物・駐車場・外構の3要素から構成されます。建物は、延床面積約8,000㎡、建築面積は、1,600㎡と想定します。また、駐車場面積は、平面駐車場7,300㎡、外構は、2,100㎡となるので、必要面積の合計は11,000㎡となります。このため、不足する用地については、既存の文化会館裏駐車場の活用や隣接地の取得により確保し、利用者の利便性の確保に努めます。



- 1. 用途地域: 商業地域
- 2. 建ぺい率: 80%
- 3. 容積率: 400%
- 4. 地番: 香取市佐原字竹之下イ132番8ほか

# 7. 敷地利用計画の検討

## 7-2 動線計画の検討



# 7. 敷地利用計画の検討

## 7-3 駐車場計画の検討

### (1) 基本的な考え方

駐車場台数としては、図書館・公民館などの既存施設における駐車台数の状況や社会福祉関連施設、子育て関連施設、観光情報発信施設などの市内類似施設の駐車台数の状況から、施設ごとの利用時間帯などを考慮し、駐車場台数を設定します。現在コミュニティセンターで利用している駐車場などの活用も考慮し、駐車場の適切な配置を行います。

### (2) 想定駐車場台数

複合公共施設用駐車場台数は概ね230台程度を想定します

### (3) 駐車場用地の確保

建設地が佐原駅周辺ということから、周辺の状況を考慮し、施設利用者以外の駐車場の利用を制限するため、駐車場入り口にゲートを設置します。

また、現在の建設用地では、想定駐車台数を平面駐車場で確保することが困難であることから、既存の文化会館裏駐車場の活用や、新たに隣接する用地の取得を進めることで、必要な駐車スペースを確保します。



敷地利用全体面積（追加取得用地含む）

区分名称	概算面積(m <sup>2</sup> )
建物	1,600
駐車場	7,300
外構	2,100
合計	11,000

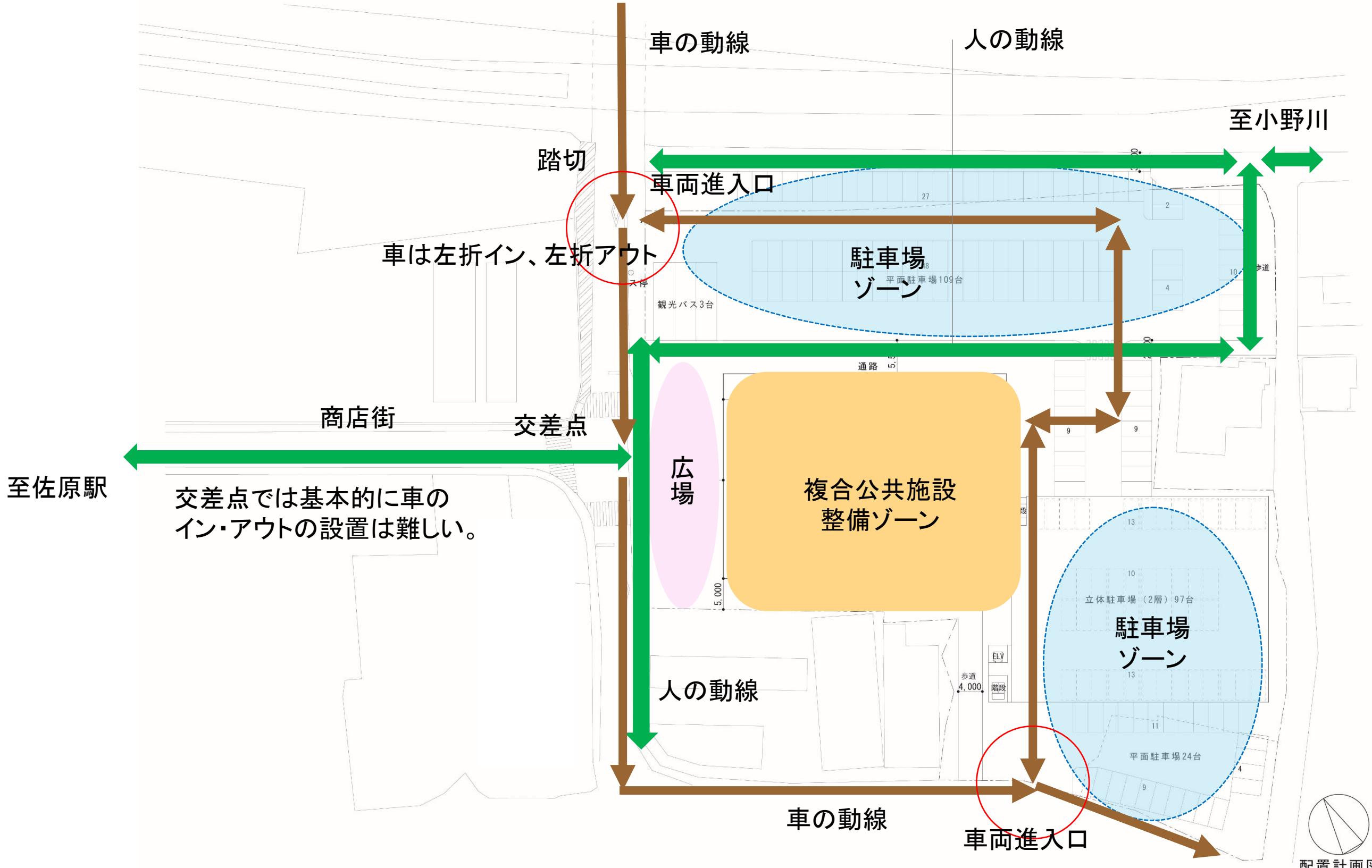
駐車場台数

区分名称	台数(台)
第1駐車場	180
第2駐車場(文化会館裏)	50
合計	230

# 7. 敷地利用計画の検討

## 7-4 敷地利用計画の検討

車の動線と駐車台数の確保を検討すると、複合公共施設の配置される位置がほぼ確定されます。

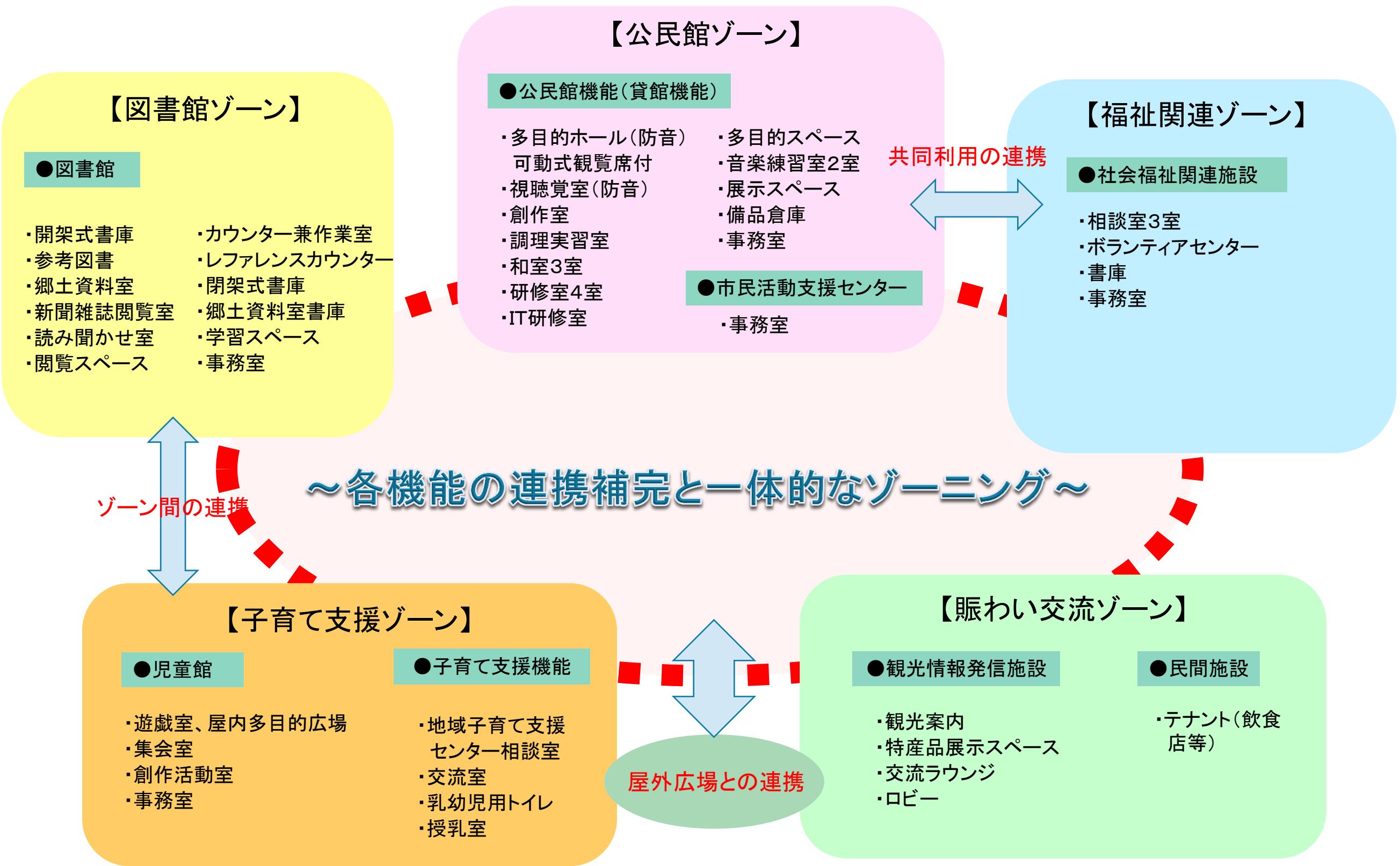


配置計画図

# 7. 敷地利用計画の検討

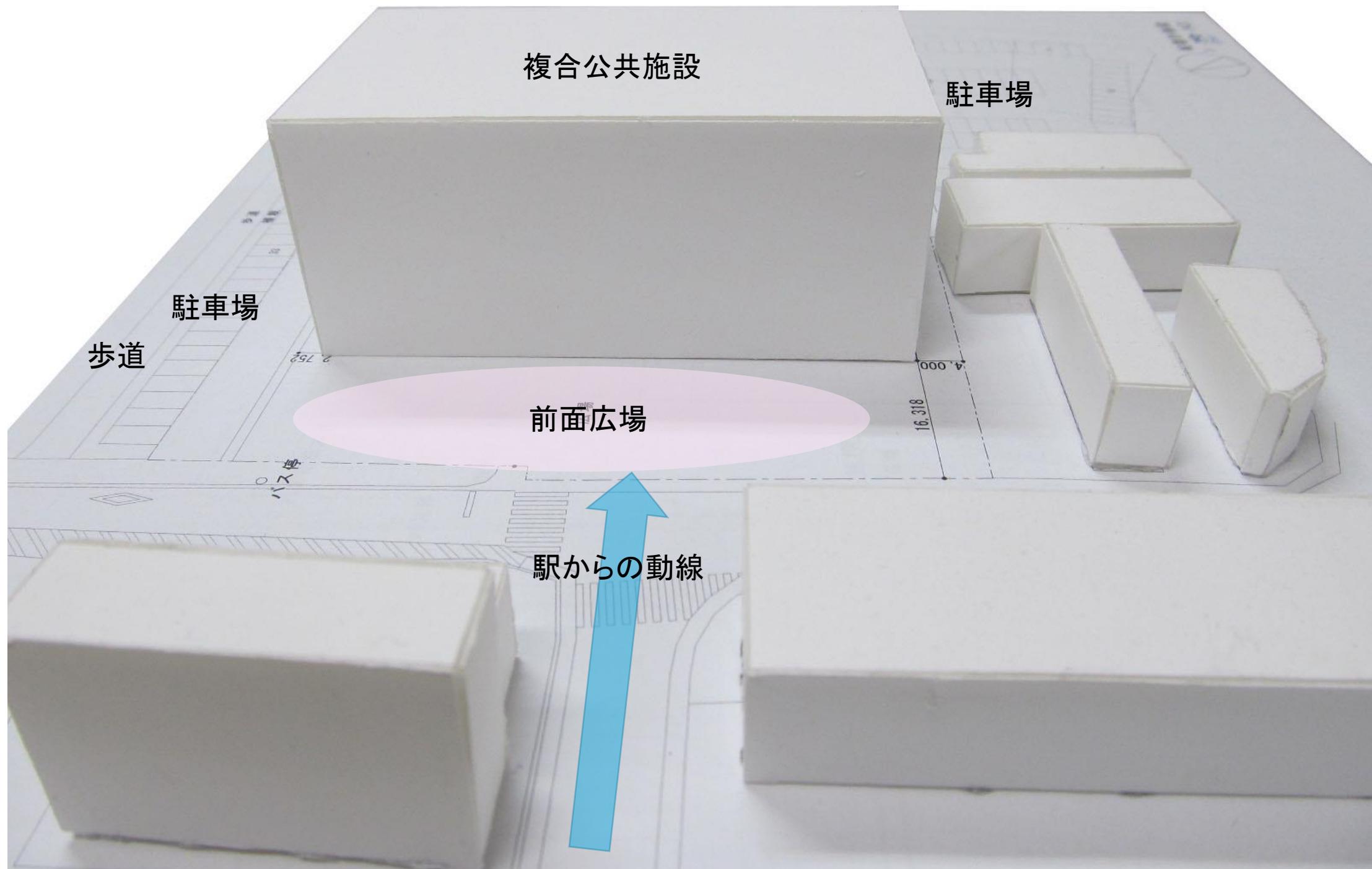
## 7-5 概略施設ゾーニング

利用者の利便性や施設の関連性を考慮すると、複合公共施設は概略5つのゾーンで構成される



# 7. 敷地利用計画

## 7-6 基本イメージ



## 8. 施設整備への配慮事項

### 8-1 周辺環境への配慮

#### (1) 景観への配慮

- ・ 歴史的な景観を有する佐原地区の中心市街地にふさわしく、誰もが親しみを持てる外観とします。
- ・ ガラス面からの照り返しなど、建物から周辺に悪影響を与えないよう、素材選定にあたっては十分に配慮した計画とします。
- ・ 建物の過度な高層化は避け、周辺環境や景観に馴染む計画とします。

#### (2) 地域との関係性への配慮

- ・ 適切な広場の配置、コミュニティスペースの設置により、住民の生活に潤いと活気をもたらす計画とします。
- ・ 外部および低層部の動線計画により、敷地周辺との連続性を確保し、地域との関係を密接なものとしします。
- ・ 住民や学生、観光客などが気軽に訪れ、コミュニケーションが取れる内外部の空間を計画します。

## 8. 施設整備への配慮事項

### 8-2 防災への配慮

#### (1) 避難所としての位置づけ

本施設は、災害時における避難所として位置づけることとします。

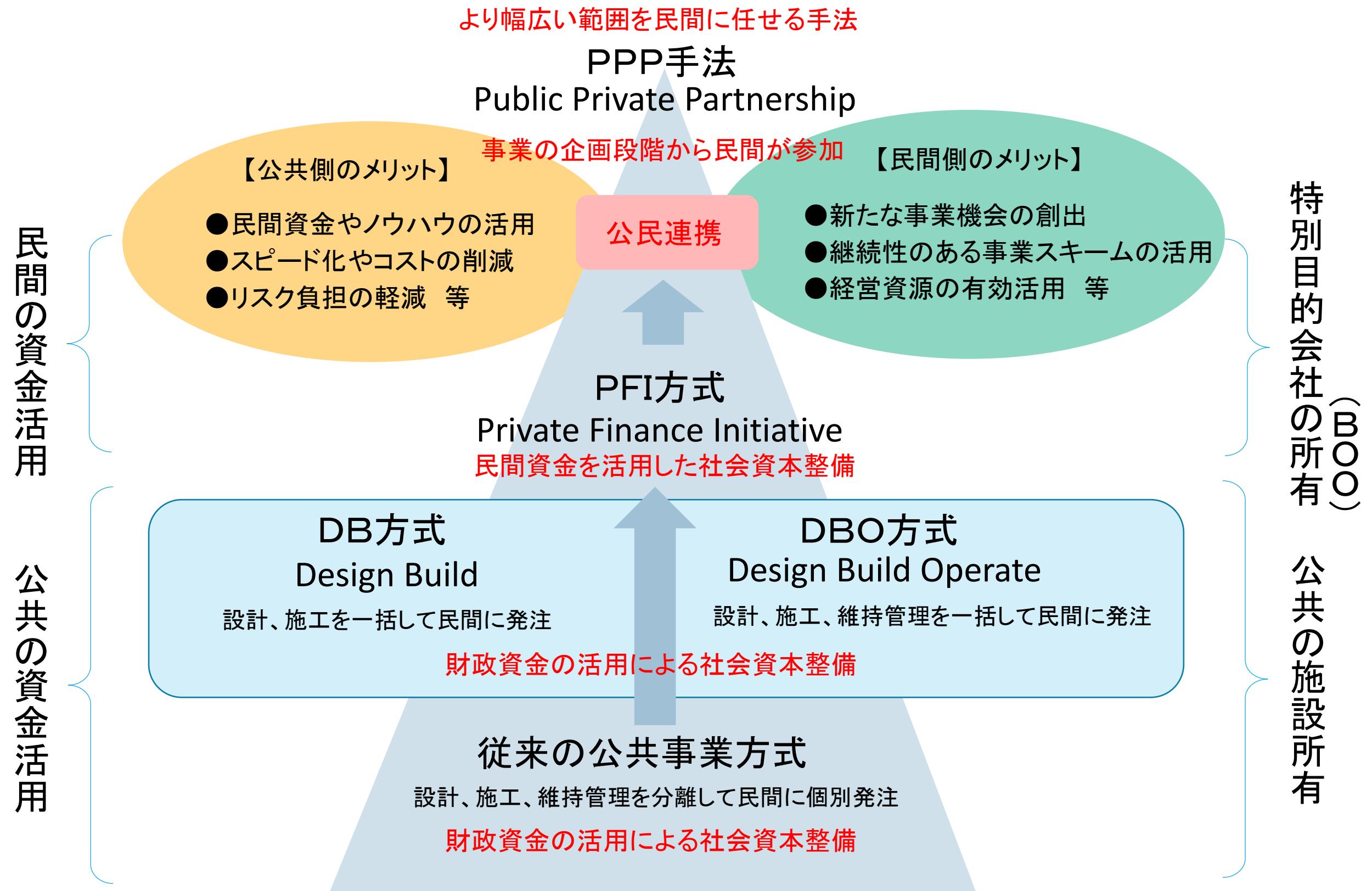
#### (2) 利用者に対する配慮

- ・地震に対する建物の構造安全性の確保（重要度係数：1.25）
- ・避難路に配慮した敷地内及び建物内のアクセス確保
- ・施設閉館時の災害発生における避難路の確保  
（誘導サインの適切な配置・ソーラー発電式外灯や蓄光素材の採用等を必要に応じて検討）
- ・公共施設として必要な備品  
（AEDの設置や毛布・懐中電灯などの災害を想定した備品類の常備を検討）
- ・大規模停電を想定した、外部電源からの供給が可能な設備対応  
（自家発電設備・太陽光発電設備の設置を検討）
- ・高齢者等に配慮した防災マニュアルの整備
- ・室内は不要な間仕切り壁を極力減らし、避難場所としてまとまったスペースを多く確保
- ・天井は落下の危険性が無いよう適切に計画

# 9. 事業手法の検討

## 9-1 事業手法の整理と評価 (1) 公民連携事業手法の特徴

事業手法については、公共・民間双方のメリットを活かす公民連携のスキームが各地で検討されており、民間の参画度が高まりつつあります。



## 9. 事業手法の検討

### (2) 事業手法のバリエーション

昨今、厳しい財政状況の下、公共投資額をできる限り抑制しながら、住民生活や経済活動等に必要な社会資本を整備し、効率的かつ効果的な公共サービスの提供を図ることが求められています。

そのような社会状況の中、公共施設等の設計、建設、維持管理及び運営に係る事業手法については、近年、P F I (Private Finance Initiative) をはじめとした民間の有する資金やノウハウを活用する様々な事業手法が取り入れられてきています。P F I は、「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」(以下「P F I 法」という。)や国の基本方針等に則した手続きを経ることが必要とされていますが、事業の仕組みはP F I と同じでも、P F I 法上の手続きを省略するなど、国の基本方針等に基づかないで実施している「P F I 的手法」と呼ばれているものもあります。

本市の複合公共施設建設においても、最も有効な事業手法を選択する必要があることから、様々な事業手法のうち、一般方式(従来方式)、P F I 方式(B T O方式)、D B O方式、D B 方式の4つの手法について、それぞれの特徴を整理し、本市の実情を踏まえながら最も適切な事業手法を検討します。それぞれの特徴は次頁図1に整理。

#### ①一般方式(従来方式)

通常の公共事業の実施手法であり、市の財政資金を用いて設計、建設、維持管理及び運営について、それぞれ民間事業者へ委託、発注する方式です。

#### ②P F I 方式(B T O方式、Build Transfer Operate)

P F I 法に基づいて民間事業者が自ら資金調達を行い、設計・建設業務を一体的に行い、施設整備直後に所有権を市に移転したのち、民間事業者が維持管理及び運営を行う事業手法です。

※P F I 方式の中には、施設所有権の移転の時期等の違いにより数種の方式がありますが、庁舎という観点から竣工と同時に市が施設所有者となるB T O方式が妥当であると考えられています。

#### ③D B O方式(Design Build Operate)

市の財政資金を用いて、施設の所有権を有したまま民間事業者に設計、建設、維持管理及び運営を一体的に委ねる方式です。この手法は、P F I に近似する手法であるが、P F I では、民間が建設主体となり、建設資金の調達も行うのに対し、D B Oでは、建設主体は公共で(民間は請負主体)、その結果、資金調達も公共が担うこととなり、この点でP F I とは異なると考えられていることから、P F I 的手法として位置づけられています。

#### ④D B 方式(Design Build)

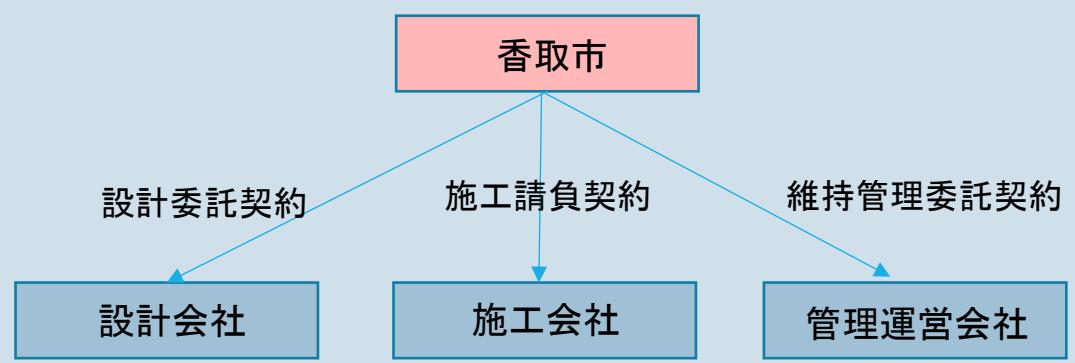
D B O方式のうち、維持管理及び運営を除いた設計、建設を一体的に行う方式です。

# 9. 事業手法の検討

図1 事業手法の概要

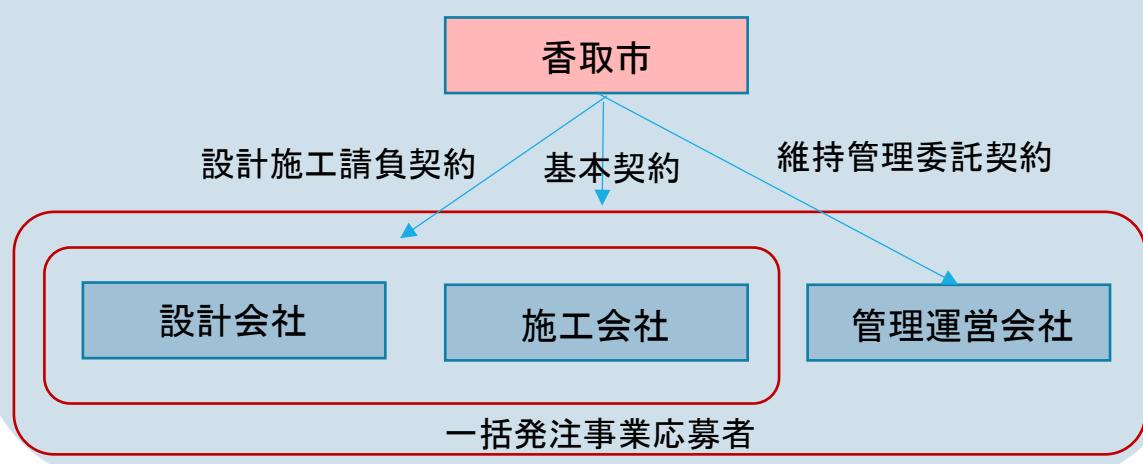
## ①従来方式・・・設計、施工、管理の分離発注方式

●香取市の財政資金を用いて設計、建設、維持管理、運営をそれぞれの民間事業者へ委託発注する方式



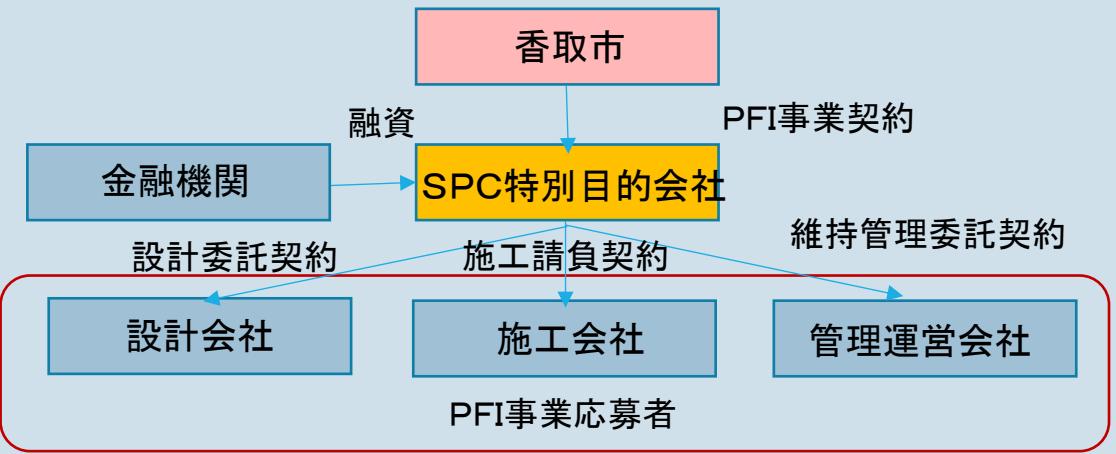
## ③DBO方式・・・設計、施工、管理の一括発注方式

●香取市の財政資金を用いて施設の所有権を有したまま、民間事業者へ設計、建設、維持管理、運営を一体的に発注する方式



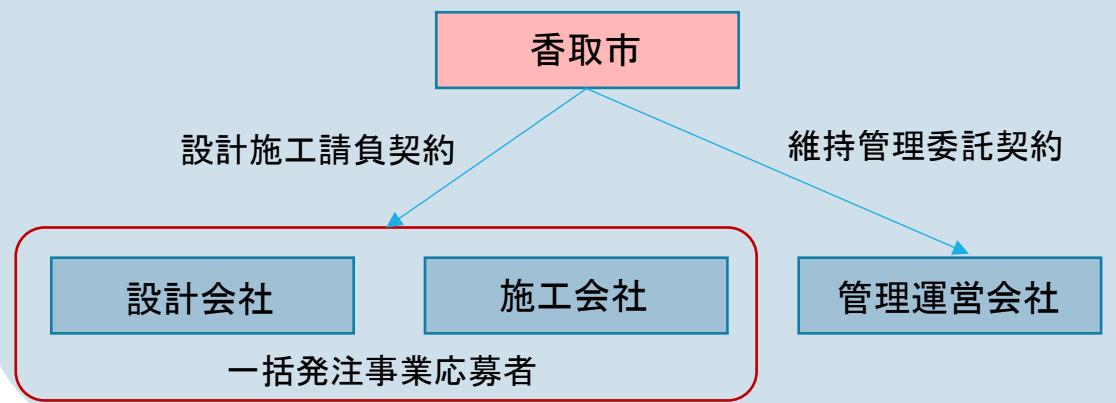
## ②PFI方式・・・PFI事業契約による一括発注方式

●PFI法に基づいて民間事業者が自らの資金調達を行い、設計、建設を一体的に行い、施設整備後に所有権を香取市に移転した後、民間事業者が維持管理及び運営を行う方式(BTOの場合)



## ④DB方式・・・設計、施工の一括発注方式

●香取市の財政資金を用いて施設の所有権を有したまま、民間事業者へ維持管理、運営を除いた設計、建設を一体的に発注する方式



## 9. 事業手法の検討

### (3) 事業手法の評価

従来方式以外の民間活力を導入した事業手法を選択すると、次のような問題が生じる可能性があります。

- ・可能性調査に6ヶ月以上、民間事業者選定に1年以上の期間が必要となり約2年程度事業期間が延びる。
- ・民間事業者の創意工夫によるサービス向上や維持管理、運営が難しいことから、民間事業者にとって魅力的な事業とならず、結果的に適切な競争環境が確保されず、落札されない可能性がある。
- ・設計や施工等に関する要求条件に基づき提案された「設計等案」を選定することになるため、設計過程において設計条件を大きく変更することは難しいと考えられる。

【事業手法比較表】

	一般方式	PFI方式	DBO方式	DB方式
資金調達	公共	民間	公共	公共
設計	公共	民間	民間	民間
建設	公共	民間	民間	民間
維持管理	公共	民間	民間	公共
運営	公共	民間	民間	公共
契約	各業務を個別に契約	設計・建設・管理・運営を一括して契約	設計・建設・管理・運営を一括して契約	設計・建設を一括して契約
竣工までに要する期間	小	大(+2年程度)	大(+2年程度)	中(+1年程度)
民間ノウハウの発揮	△	○	○	○
設計変更の容易さ	○	△	△	△
応募者の負担	小	大	大	小～中

# 9. 事業手法の検討

## 9-2 財源の検討

建設費等の事業費については、社会資本整備総合交付金（※1）及び合併特例債（※2）などの有利な財源を利用するとともに、公共施設を集約化し、機能を複合化するメリットを最大限発揮することで建設コストの削減に努めます。また、維持保全費・運用管理費などの施設運営費（ランニングコスト）についても、今後の設計の段階から建設費等との費用対効果を検証し、断熱性の高い資材の使用や太陽光パネルの設置、施設運営の一部民間委託等などにより、コストの検証を行い、将来的なコストの削減を図ります。

- ※1・・・社会資本整備総合交付金は、国土交通省所管の地方公共団体向け個別の補助金をひとつの交付金に原則一括したもので、地方公共団体にとって自由度が高く、創意工夫を活かせる総合的な交付金として、平成22年度創設。この交付金は、活力創出、水の安全・安心、市街地整備、地域住宅支援といった政策目的を実現するため、地方公共団体が作成した社会資本総合整備計画に基づき、目標実現のための基幹的な社会資本整備事業のほか、関連する社会資本整備やソフト事業について国から交付される。
- ※2・・・合併特例債とは、合併した市町村が合併後10年間に限り使える地方債（借金）ですが、行う事業費の95%までを借り入れることができ、元利償還金（元金と利子を合せて返すお金）の70%が普通交付税で市に入ってくる有利なものとなっている。発行期限は合併から15年（東日本大震災の被災地は合併から20年＝平成37年度まで）。

## 9-3 事業手法選定に係るポイントと方向性

本市の複合公共施設建設にあたっては、合併特例債の活用を前提としており、特例債の適用に制限があること等や、様々な課題を克服しながら、速やかに複合公共施設を建設する必要があることを勘案して事業手法を採用する必要があります。

### 【事業手法選定への考察】

#### 【事業手法の選定ポイント】

1. 中心部の賑わい創出と地元経済の振興に寄与できる
2. 老朽化や耐震性の不安を解消するために早期に建設できる
3. 様々な段階で市民や地元関係者の意見や要望を反映しやすい
4. 運営面では専門性を生かした満足度の高いサービスが提供できる
5. ライフサイクルコストの縮減等も含めた適正なコスト配分

1. 公民連携手法のメリットを活用できる分野の見極め  
当計画では、敷地等の問題から、ほとんどが公共施設として整備するため、公民連携の活用メリットは限定される
2. 公共主体で早期に事業化が可能な手法  
合併特例債や補助金等の活用で建設財源が賄えるならば、煩雑で時間のかかるPFI方式など民間資金を活用する必要性は低い（民間資金は調達金利が必要）
3. 柔軟な設計変更や運営スタイルの変更がし易い手法  
DBO方式、PFI方式等は、民間企業グループから一括提案を受けて、事前に計画案が選定されるため、契約後の柔軟な内容変更がしにくい（設計部分はDB方式にも該当）
4. 公共が適切なコストで施設整備及び安全かつ確実に維持管理運営をできる手法  
一括で提案・契約する手法はLCCの縮減は期待できるが、設計施工段階のVEや維持管理段階での細やかな修正など分離発注方式の方が柔軟性が高い
5. 地元企業の育成と地元経済の活性化に寄与できる手法  
多くの市民が日常的に利用する公共サービス施設として、また、地元企業の参画し易い手法として、設計、施工、維持管理の分離発注方式が望ましい

したがって、本市の複合公共施設における事業手法は一般方式（従来方式の設計・施工・維持管理の分離発注方式）またはDB方式を採用するのが妥当と考えられます。

## 10-1 管理運営の基本方針

管理運営については、公共と民間企業と市民活動団体等との積極的な協働による公民連携の管理運営をめざすことが重要です。

人々が集い、暮らし、交流する、賑わいのあるまちづくりの拠点施設

### 〈香取シビック・ジョイテラス〉

#### 【公民協働による多様性のある運営】

- 生活者の視点から、公共と民間が協働した、複合施設ならではの多様な魅力を発信できる運営をめざす

公共だけではなく、多様なサポーターの参画による市民が主役の「まちに開かれた管理運営スタイル」の実現

### *Civic Partnership*

#### 【機能融合による効果的な運営】

- 子供から高齢者まで、様々な目的を持つ人々が交流する、誰もが利用し易い効果的な運営をめざす

#### 【一体化による効率的な運営】

- 施設長の方針に基づき、公共の直接運営と民間等への委託を組み合わせ、一体的で効率的な運営をめざす

10-2 管理運営手法の検討

複合公共施設の管理・運営は、大きく分けて「指定管理者制度の導入」または「香取市の直営（運営委託を含む）」のどちらかを選択することになります。

香取市では市民サービスの向上や行政コストの削減等を図るために指定管理者制度の導入を進めており、「指定管理者制度導入指針」（平成20年7月）では、既存施設の指定管理者導入の判断基準として、以下の項目を示しています。

【指定管理者導入の判断基準】

運営主体

①民間事業者等の能力やノウハウを活用することにより、市民ニーズにあったサービスの充実やコストの削減が期待できる。

②民間事業者等が同様または類似するサービスを提供している。あるいは、民間事業者等も行うことができる業務である。

③利用料金制度を導入することにより、収益が期待できる施設である。

指定管理者

運営主体

④法律等により、民間事業者等が行うことに明確な制約がある。

⑤民間事業者等に当該施設の目的を達成できる能力やノウハウがない。

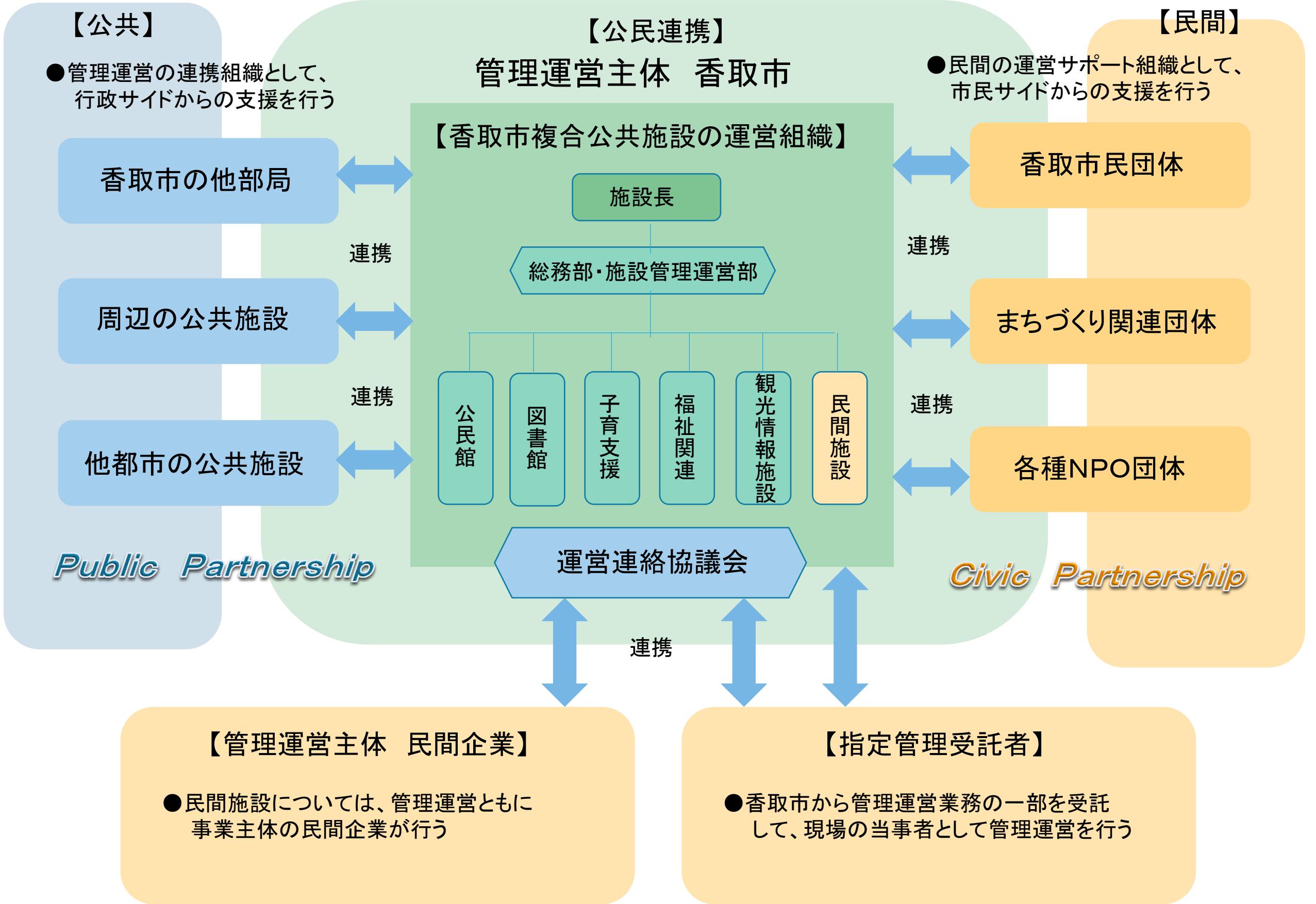
⑥施設の性格等、行政で行わなければならない明確な理由がある。

⑦施設・事業の規模が小さく指定管理者制度を導入するメリットがない。

香取市の直営  
運営委託含む

# 10. 管理運営計画

## 10-3 管理運営体制の検討 (1)



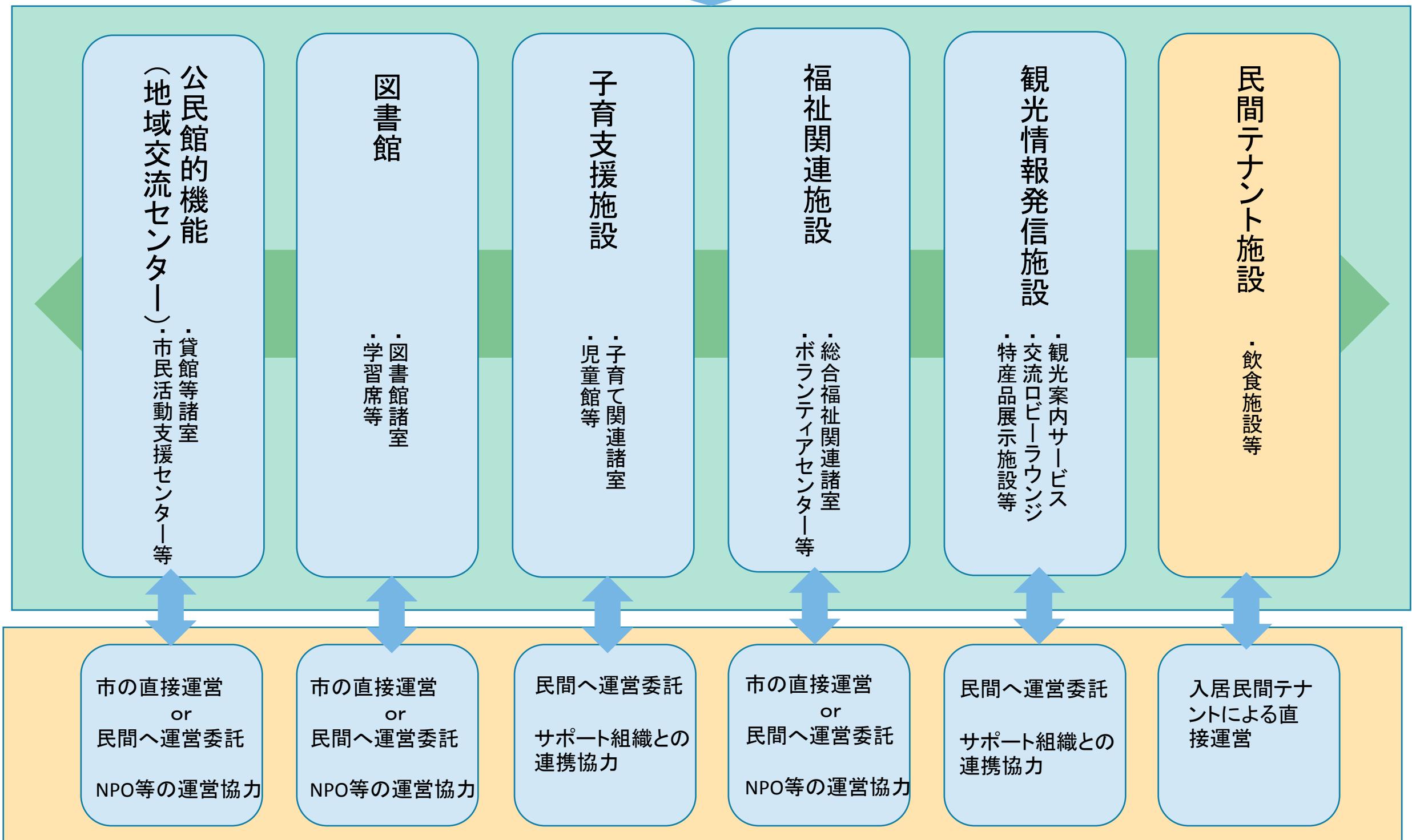
10. 管理運営計画

10-3 管理運営体制の検討 (2)

管理部門(香取市の直轄)

施設管理・施設運営部門(一部民間へ委託)

施設間の機能融合による効果的な運営  
公民一体化による効率的な運営



公民協働による多様性のある運営

# 1 1. 実現化に向けての検討

## 1 1 - 1 実現化への課題

(1) 中心市街地活性化への波及効果が十分発揮できる『整備用地の確保』

交流広場、複合施設用地、駐車場等を有効に配置するために必要な用地を確保する。

(2) 公共施設の複合化メリットを最大限引き出すための『行政関係部署との連携促進』

施設の共同利用化や効率的な一体的運営を実現するため関係部署とのより緊密な協議を実施する。

(3) 香取市民の生活創造に寄与できる施設とするための『住民とのコンセンサスづくり』

構成施設の内容については、今後も住民意見を十分反映できる機会を設ける。

(4) 官民連携による施設運営を実現させるための『地元関連組織を含めたコンソーシアム化』

運営については極力民間の力を活用するため地元企業や組織との連携強化を図る。

(5) 設計発注に必要な与件や性能等の検討を行い公募時の『公募条件や契約形態を作成』

設計に求められる要求水準書や運営者の資格要件、サービスレベルの担保などの検討。

(6) 発注時期を想定した建設工事費の『予定価格のシミュレーション』

現状では建設費の高騰が続いており、事業実施時点の水準に対する修正検討の必要性がある。

# 1.1. 実現化に向けての検討

## 1.1-2 概算工事費の検討

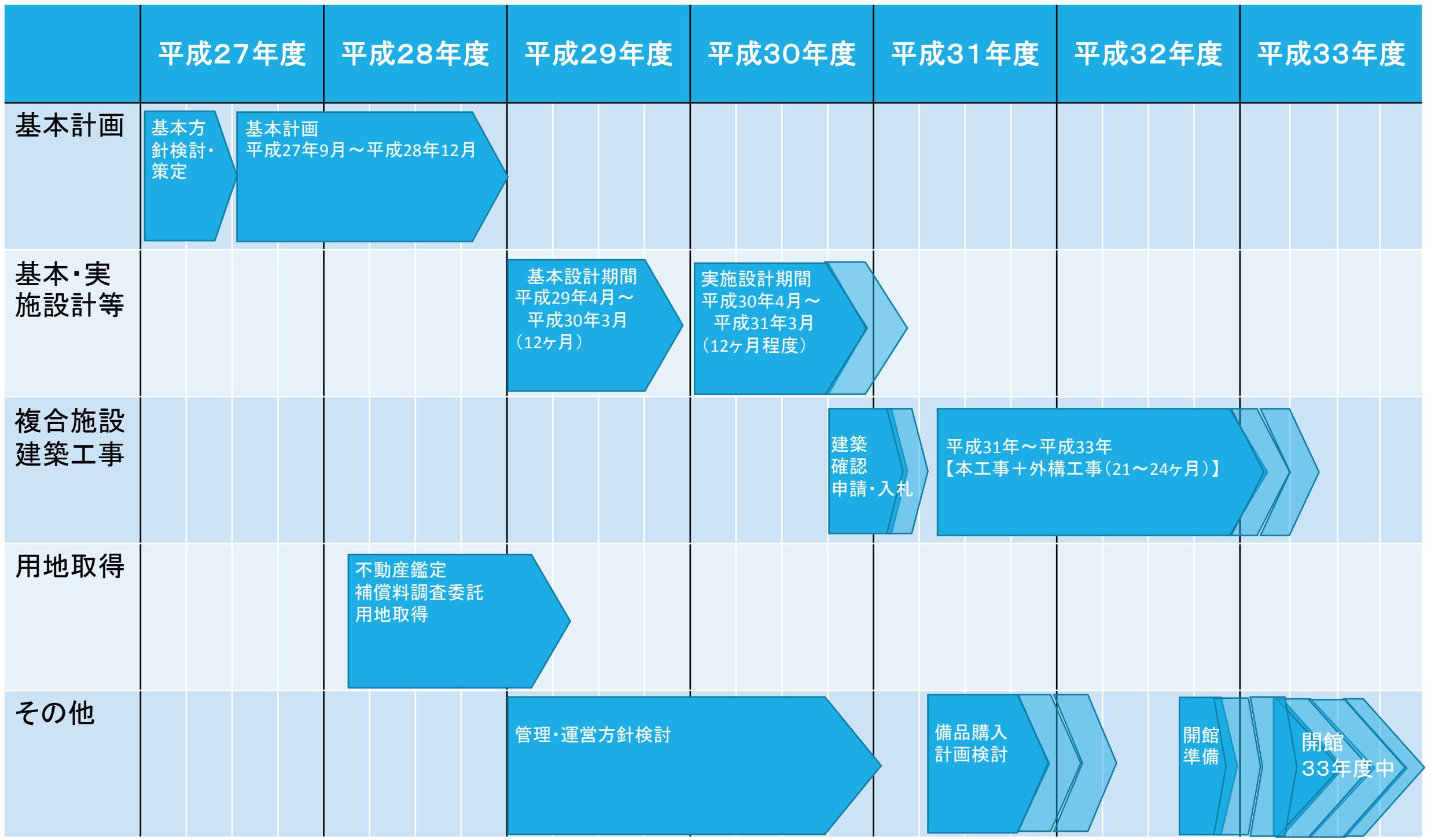
近年建設された類似の機能、規模、構造の事例から概算工事費の検討を行った。本事業における具体的な概算工事費の算出は、基本設計時に行うこととする。

施設名	えんぱーく (長野県塩尻市)	武蔵野プレイス (東京都武蔵野市)	西脇市茜が丘複合施設 みらいえ (兵庫県西脇市)	浦和美園駅東口駅前複合公共施設 (埼玉県さいたま市)
敷地面積	4,937.45m <sup>2</sup>	2,166.20m <sup>2</sup>	24,000m <sup>2</sup>	5,284.85m <sup>2</sup>
建築面積	3,388.71m <sup>2</sup>	1,517.47m <sup>2</sup>	—	—
延床面積	11,901.64m <sup>2</sup>	9,809.76m <sup>2</sup>	5,187.76m <sup>2</sup>	5,095.28m <sup>2</sup>
構造・階数	RC造一部鉄骨造 (基礎免震) 地上5階、地下1階	SRC造、RC造 地上4階、地下3階	RC造一部鉄骨造 地上2階	RC造 地上3階
工事期間	平成20年11月 ～平成22年8月	平成20年12月 ～平成23年1月	平成25年10月 ～平成27年1月	平成26年3月 ～平成27年3月
事業費	総事業費 3,570,000,000円 (土地 540,000,000円) (建物 3,030,000,000)	3,701,250,000円 (建物のみ)	総事業費 3,400,000,000円 (土地・建物)	2,200,000,000円 (建物のみ)

# 1 1. 実現化に向けての検討

## 1 1 - 3 事業スケジュール

本基本計画に基づき、平成29年度4月に設計開始、平成31年度に本工事着工、そして平成33年度内に開館を予定している。



※事業スケジュールについては、現時点での目安となります。また、発注方式等により工程が変更になる場合があります。

# 1 2. 基本計画の策定経過

## 1 2 - 1 主な策定過程

### ○佐原駅周辺地区複合公共施設整備事業基本計画策定委員会の概要

平成27年10月、佐原駅周辺地区複合公共施設整備事業基本計画を策定するため、関係団体の代表者ら21名の委員で構成する佐原駅周辺地区複合公共施設整備事業基本計画策定委員会（以下、「委員会」という。）を設置しました。

これまで委員会は、合計5回を開催し、施設に導入する機能の他、土地の利用計画、周辺地区への影響など、多くの意見が出され、基本構想・基本計画の取りまとめを行いました。

回数	主な検討内容
第1回 H27.10.27(火)	・佐原駅周辺地区活性化拠点基本計画の見直しの経過及び今後のスケジュールについて ・佐原駅周辺地区複合公共施設に求められる役割・機能について
第2回 H27.11.18(水)	・各施設面積の想定と概略土地利用パターンの検討
第3回 H27.12.22(火)	・佐原駅周辺地区複合公共施設整備事業基本構想(案)について
第4回 H28.2.2(火)	・基本構想(案)の修正について ・スケジュールの変更について
第5回 H28.10.20(木)	・基本計画(案)について ・パネルアンケートの結果について



第1回委員会風景



第2回委員会風景



第3回委員会風景



第4回委員会風景



第5回委員会風景

# 資料編

- 複合型公共施設等の参考事例

## 13-1 参考施設事例…生活者向け公共施設のトレンド

様々な公民連携スタイルを取り入れつつ、住民ニーズにきめ細かく対応し、快適で利便性の高い公共サービス施設を整備

### 【類似参考施設事例】

#### 1. 公民館

- ・世代を超えた生涯学習の拠点として多様なサービスを展開

#### 2. 図書館

- ・書籍の充実と共にITの活用、カフェ等交流スペースの充実

#### 3. 子育て関連施設

- ・子育て家族のサポート施設として、きめ細かいサービスを実施

#### 4. 社会福祉関連施設

- ・生活支援サービスを充実させ、高齢者の介護拠点としても活用

#### 5～. 複合公共施設

- ・公共施設の複合化を図り、運営の効率化と生活者の利便性を向上



### 1. 生活支援サービス機能の拡充

- ・教育、福祉、交流など多世代に対してきめ細かい生活支援メニューを充実

### 2. 多機能複合化によるワンストップ性の強化

- ・日常生活に係わる公共サービス機能を複合化させ、利便性と効率性を追求

### 3. 賑わい交流スペースの魅力アップ

- ・交流を促進するカフェ、ギャラリー、イベント広場などコミュニケーション環境の充実

### 4. 公設民営による事業の長期安定化

- ・指定管理者制度等で経験豊富な民間企業への運営委託により効率的な運営を実施

### 5. 公民連携の施設整備・運営による総合力の発揮

- ・まちづくりビジョンの作成から施設の開発運営まで、地元関係者の協力体制を構築

# 13. 資料編・・・複合型公共施設の参考事例

## 13-1 参考施設事例・・・特徴の整理

事例の分類	名称・概要	施設・運営の特徴	整備効果
①公共施設 公民館	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設名称 「川口並木公民館」</li> <li>施設面積 2,187㎡</li> <li>設置者 川口市、運営者 川口市</li> </ul>	古くなった公民館の建て替えて、市民ニーズに対応した諸施設を整備	施設が新しく充実されたため、利用者層が広がり、施設の稼働率も高くなった
②公共施設 図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設名称 「小布施町立図書館まちとしょテラス」</li> <li>施設面積 998㎡</li> <li>設置者 小布施町、運営者 小布施町</li> </ul>	「交流と創造を楽しむ、文化の拠点」として多彩な企画イベントを開催	「未知の知」と出逢いの場、町内外の方々との交流の拠点として幅広い人々に親しまれている
③公共施設 図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設名称 「武蔵野プレイス」</li> <li>施設面積 9,813㎡</li> <li>設置者 武蔵野市、運営者(公財)武蔵野生涯学習振興事業団</li> </ul>	人々の交流を促進する多彩な機能を集約させた複合型図書館	多様な人々がそれぞれの活動を通して時間を共有する快適な空間が地域社会の魅力を高める
④子育て支援 センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設名称 「茅野市こども館0123広場」</li> <li>施設面積 1,200㎡</li> <li>設置者 茅野市、運営者 茅野市など</li> </ul>	こども同士、親同士の出会いの場や、育児の事をもっと知りたいママに対する子育て支援の場	就園前の子育て中の自由に遊べる屋根付き公園として、若い子育てママとキッズに利用されている
⑤公共施設 福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設名称 「文京福祉センター江戸川橋」</li> <li>施設面積 1,670㎡</li> <li>設置者 文京区、運営者 社会福祉法人 武蔵野会</li> </ul>	様々な生活支援サービス機能を複合した総合福祉センター	地域生活者の利便性が高まり、地域防災や地域福祉避難所としても有効に活用されている
⑥複合公共 施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設名称 「えんぱーく」</li> <li>施設面積 11,902㎡</li> <li>設置者 塩尻市、運営者 塩尻市</li> </ul>	図書館、子育て支援、青少年交流、シニア活動支援、ビジネス支援、市民活動支援の5つの機能の融合を目指した事業運営	街並みとの連続性に配慮しつつ、4つの吹き抜けを点在させて、様々な機能を効果的に配置して市民から親しまれている
⑦複合公共 施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設名称 「みんなの森 ぎふメディアコスモス」</li> <li>施設面積 15,295㎡</li> <li>設置者 岐阜市、運営者 岐阜市</li> </ul>	市立中央図書館、市民活動交流センター、多文化交流プラザ、展示ギャラリー等からなる複合施設	知の拠点、絆の拠点、文化の拠点として、市民の活動を積極的に支援している。
⑧複合公共 施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設名称 「市民交流プラザふくちやま」</li> <li>施設面積 6,426㎡</li> <li>設置者 福知山市、京都府</li> </ul>	まちと人、人と人をつなぐ交流空間を目的とし、図書館・中央公民館・北京都ジョブパークなどの複合施設	乳幼児から高齢者まで全ての市民が楽しめる施設として、幅広く利用されている。
⑨複合公共 施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設名称 「仙台メディアテーク」</li> <li>施設面積 21,682㎡</li> <li>設置者 仙台市、運営者 仙台市民文化事業団</li> </ul>	文化の活動拠点と共に、様々なメディアを通じて自由に情報を交歓する公共施設	様々なメディアを通じて自由に利用されており、芸術文化の創造発信拠点になっている
⑩官民複合 施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設名称 「紫波町オガールプラザ」</li> <li>施設面積 5,826㎡</li> <li>設置者 オガールプラザ(株)、運営者 オガールプラザ(株)、紫波町</li> </ul>	官民連携による多彩な機能の集積した大規模複合型のまちづくり	魅力的なまちづくりが評価されて広域からの来街者も増加して、街に賑わいを創出している

●施設概要

所在地 : 埼玉県川口市並木2-8-2  
 延床面積: 2187 m<sup>2</sup>  
 設置者 : 川口市  
 運営主体: 川口市  
 開設年 : 平成23年2月

- 主な施設:
1. 会議室
  2. 料理実習室
  3. ミーティングルーム
  4. 体育ホール
  5. 講座室
  6. 日本間
  7. 視聴覚室



明るく快適な公民館として利用者層も拡大



並木公民館(施設内容)

(2014年7月3日更新)

使用室名	階	定員	使用料(H26.4.1~)					
			午前9時 ~午前11時	午前11時 ~午後1時	午後1時 ~午後3時	午後3時 ~午後5時	午後5時 ~午後7時	午後7時 ~午後9時
会議室1号	1F	20人	140円	140円	270円	270円	410円	410円
会議室2号	1F	20人	140円	140円	270円	270円	410円	410円
料理実習室	1F	25人	210円	210円	430円	430円	640円	640円
ミーティング室	1F	20人	140円	140円	270円	270円	410円	410円
ホール(体育ホール)	2F	294人	540円	540円	1080円	1080円	1080円	1080円
講座室1号	2F	20人	140円	140円	270円	270円	410円	410円
講座室2号	2F	20人	140円	140円	270円	270円	410円	410円
日本間1号	2F	25人	140円	140円	270円	270円	410円	410円
日本間2号	2F	5人	100円	100円	210円	210円	320円	320円
視聴覚室	3F	85人	210円	210円	430円	430円	640円	640円

会議室1号(定員:20人)43.48m<sup>2</sup>

会議などで利用できます。  
 会議室2号とはスライド式パーティション(間仕切り)で区切られており、2つの部屋をつなげて1つの大きな空間としても利用可能です。隣の会議室2号とは間仕切りで区切られているだけです、大きな音を出す団体の利用はお断りさせていただきます。



備品類: 会議机10台、椅子30脚、ホワイトボード(備え付け)

会議室2号(定員:20人)44.24m<sup>2</sup>

会議などで利用できます。  
 会議室1号とはスライド式パーティション(間仕切り)で区切られており、2つの部屋をつなげて1つの大きな空間としても利用可能です。隣の会議室1号とは間仕切りで区切られているだけです、大きな音を出す団体の利用はお断りさせていただきます。



備品類: 会議机10台、椅子30脚、ホワイトボード(備え付け)

料理実習室(定員:25人)77.87m<sup>2</sup>

ここは料理実習専門の部屋です。  
 ご利用にあたっては、マスク、キャップ、エプロンを着用するなどして衛生面にご注意ください。  
 清潔を保つため、料理実習室内は土足厳禁です。  
 調理台は5台で、うち4台がガスで、1台は電磁調理器(車いす)

備品類: 会議机10台、椅子30脚、ホワイトボード(備え付け)



講座室2号(定員:20人)44.24m<sup>2</sup>

会議などで利用できます。  
 講座室1号とはスライド式パーティション(間仕切り)で区切られており、2つの部屋をつなげて1つの大きな空間としても利用可能です。隣の講座室1号とは間仕切りで区切られているだけです、大きな音を出す団体の利用はお断りさせていただきます。



備品類: 会議机10台、椅子30脚、ホワイトボード(備え付け)

日本間1号(定員:25人)42.7m<sup>2</sup>

日本間1号は16畳と広縁からなる和室です。  
 着付け、書道、詩吟、民謡、民謡などご利用できます。  
 備品類: 座卓5台、座布団、娯楽、電気コンロ他



日本間2号(定員:5人)14.7m<sup>2</sup>

日本間2号は4畳半の小さな和室です。  
 少人数での茶道、生花、着付けなどご利用できます。  
 設備: 座布団、電気コンロ



対応)です。  
 電磁調理器の調理台は機械で上下することができ、車いすの方でもご利用いただけます。

※料理実習室には、椅子がございません。  
 調理した料理の試食には、併せてミーティング室の予約をお勧めしております。  
 また、洗剤やスポンジなどについてはご自身でご用意くださるようお願いいたします。



ミーティングルーム(定員:20人)39.21m<sup>2</sup>

料理実習室に隣りっており、調理した料理の試食や小会議などにご利用いただけます。  
 備品類: 会議机10台、椅子20脚、ホワイトボード。



ホール(体育ホール)(定員:294人)484.05m<sup>2</sup>

可動式椅子(276席)と収納式ステージ(幅8.5m、奥行3.6m)があり、体育ホールとしての他、講演会等でもご利用いただけます。

体育ホールとしてはバレーボール(1面)、バドミントン(1面)、ミニテニス(2面)、卓球(5卓)等の利用が可能です。  
 ただし、壁及び床面等を傷つけるような利用(社交ダンス、ダーツ、フットサル等)はできません。  
 バスケットボールは、ゴールが設置されていないためご利用できません。  
 もし、施設の破損や故障などがあつた場合は、修繕費用を利用者に負担していただくことがあります。



利用する場合は、必ず体育館シューズを履いてください。(土足禁止です!)  
 道具類の持ち込みがある場合は、必ず事前にご連絡ください。

可動式椅子を利用する場合には、利用日より前に必ず並木公民館までお問い合わせください。  
 また、可動式椅子の準備・片付けにはそれぞれ30分程度必要ですので、それを考慮に入れての予約をお願いいたします。

※駐車スペースが少ないことから、できるだけ車でのご来館は控えるようご協力をお願いいたします。

講座室1号(定員:20人)43.48m<sup>2</sup>

会議などで利用できます。  
 講座室1号とはスライド式パーティション(間仕切り)で区切られており、2つの部屋をつなげて1つの大きな空間としても利用可能です。隣の講座室2号とは間仕切りで区切られているだけです、大きな音を出す団体の利用はお断りさせていただきます。

視聴覚室(定員:85人)113.55m<sup>2</sup>

小ステージがあり、会議・講演・体操等、多目的にご利用いただけます。

大きな音を出す楽器(打楽器・金管楽器等)の利用はできません。



備品類: 会議机30台、椅子90脚、ホワイトボード

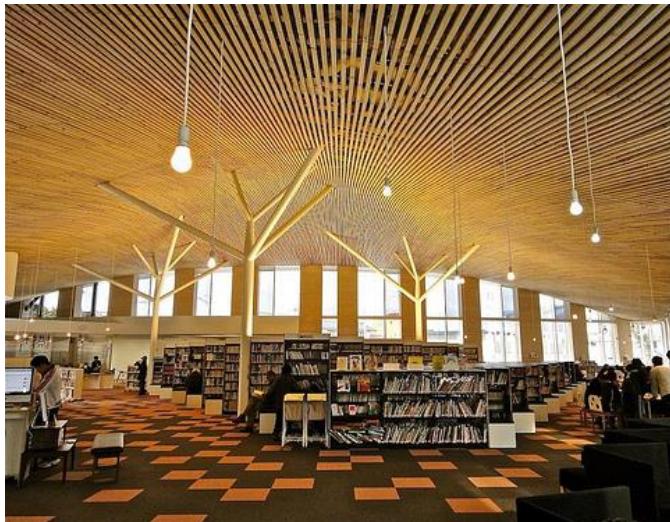


# 【図書館】②小布施町立図書館「まちとしょテラソ」 「交流と創造を楽しむ、文化の拠点」として多彩な企画イベントを開催

## ●施設概要

所在地 : 長野県上高井郡小布施町小布施  
 延床面積: 998㎡  
 設置者 : 小布施町  
 運営主体: 小布施町  
 開設年 : 平成21年7月  
 主な施設:  
 1. コンシェルジュカウンター、サービスカウンター  
 2. 書架、児童コーナー  
 3. 閲覧室、調査閲覧室、多目的室、視聴覚コーナー  
 4. カフェコーナー、授乳コーナー

学びの場、子育ての場、交流の場、情報発信の場として、交流と創造を楽しむ文化の拠点として整備された。



### 図書館内でのオリジナルグッズの販売 —小布施町立図書館(長野県小布施町)

- 販売品目
  - トートバッグ
  - クリアホルダー
  - 図書館を撮影したポストカード
  - 地元出版社の本
  - 小布施町立図書館や小布施町に関連した本
  - 文具
- 収入の扱い: 町の雑収入
- 特定財源化の必要性
  - 図書館へ還元する経度設計



学習をまかす社会へ

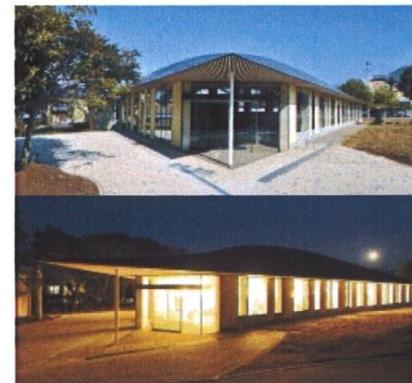
### まちとしょテラソ

まちとしょテラソは、「学びの場」「子育ての場」「交流の場」「情報発信の場」という4つの柱による「交流と創造を楽しむ、文化の拠点」という理念のもとで建築されました。

皆さまに親しまれる集いの場になるように、これまで親しまれた町の図書館であることと、待ち合わせの場という意味を込めた「まちとしょ」そして、「世の中を照らしたす場」「小布施から世界を照らそう」などの考えを加えて「まちとしょテラソ」という愛称がつけました。

まちとしょテラソは、夜になると行灯のようにあたたかく周囲を照らします。この場で未来を担う子供たちが世界を感じ、飛び立っていく支援や何かを創り出す人の支援、ここへくると何か新しいものを学べるといった生涯学習の拠点として使用していただくことを目指します。

ここは、「未知の知」と出会いの場、町内外の方々と交流の拠点としてみなさまのお役にたつように努めて参ります。



## まちじゅうを図書館に ～本をとおりして交流を楽しむ～

小布施町立図書館「まちとしょテラソ」(長野県上高井郡小布施町) 【URL】<http://machitoshoterrasow.com>

### 基本データ (数値はH25年現在)

住所	上高井郡小布施町大字小布施 1491-2
電話番号	026-247-2747
人口 (図書館が所在する市町村)	11,400人
職員数 (うち有資格者数)	7人 (3人)
蔵書数	90,504冊
登録者数	7,280人
年間貸出冊数 (H24)	87,835冊

### 目的・趣旨

「おもてなしのところで図書館演出」「小さな町全体を図書館として考える」町内のお店やお宅のちょっとしたスペースに本棚を設置し、訪れた人が自由に本を手に取り、館長との会話を楽しみ、交流を深める。

### 取組概要

2012年10月、「まちじゅう図書館」スタート。  
 参加していただく商店や個人宅をすべて図書館として考え、その主はみな館長とする。将来100館を目指す、達成時には「小布施町立図書館まちとしょテラソは小布施町を『本のまち』として宣言しよう」をコンセプトに構想から3年をかけて始まった。  
 構想当初は、ICタグを使用したシステムを考えていたが、なかなか実現に至らず、構想2年目あたりから、「まとまった寄贈や個人所有の本がたくさんある」という話を町中の多方面で聞くようになり、当初の考えをもっと簡単な方法でできないものかと検討を続けた。  
 その結果、寄贈したい本をそのまま家の一角で公開するという方向性が確立され、そこから現在の「まちじゅう図書館」が始まった。「小布施町立図書館まちとしょテラソ」が中心となり、参加館10館からスタート。その後参加の手が挙がり、現在15館となった。

### 特徴

- ① 酒屋さん、味噌屋さん、カフェ等の商品展示棚等の一角や、個人のお宅の玄関先の棚等に、商品に関係する本や館長こだわりの蔵書を展示。休館日や開館時間は館長の自由設定。貸出も館長との交渉による。
  - 本好きな支店長の選書が並ぶ銀行。
  - 農産物直売所に併設され農業書が並ぶカフェ。
  - 館長こだわりの稀蔵本もある老舗の味噌醸造店。
  - 酒・肴関係の本中心の酒屋さん。
  - お客様が持ち寄ってくれた本が増えたという喫茶店等。



カフェの一角にある書棚。

- ② 開館していることを示す「オブセドリ・フラッグ」を作成し、各館に配布。来館者は、このフラッグで開館しているか否かを判断。
- ③ 「パスポート」を作成し、スタンプラリーを実施。
- ④ 「図書館マップ」を作成し、本を巡るまち歩きのお手伝い。
- ⑤ 展示する本が不足している場合は、「まちとしょテラソ」から貸し出すことも可能。



左は「まちとしょテラソ」の外観。右は館内。

### 取組の成果と今後について

- ① 情報交換や各館長の交流を図るため、定期的に館長会議を開催予定。
- ② 小布施町では、花をとおして交流を図る「オープン・ガーデン」が町内130軒のお宅で展開中。本をとおして交流を図る「まちじゅう図書館」も、将来的には100軒を目指したい。
- ③ 「交流と創造を楽しむ文化の拠点」としての住民参加の取組が評価され『ライブラリー・オブ・ザ・イヤー 2011』大賞受賞。

# 【図書館】 ③武蔵野プレイス *人々の交流を促進する多彩な機能を集約させた複合型図書館(ひと・まち・情報創造館)*

## ●施設概要

所在地 : 武蔵野市境南町2丁目3番地  
 延床面積: 9,813㎡ (うち駐車場等の面積 938.71㎡)  
 設置者 : 武蔵野市  
 運営主体: 公益財団法人武蔵野生涯学習振興事業団  
 開設年 : 平成23年7月  
 主な施設:

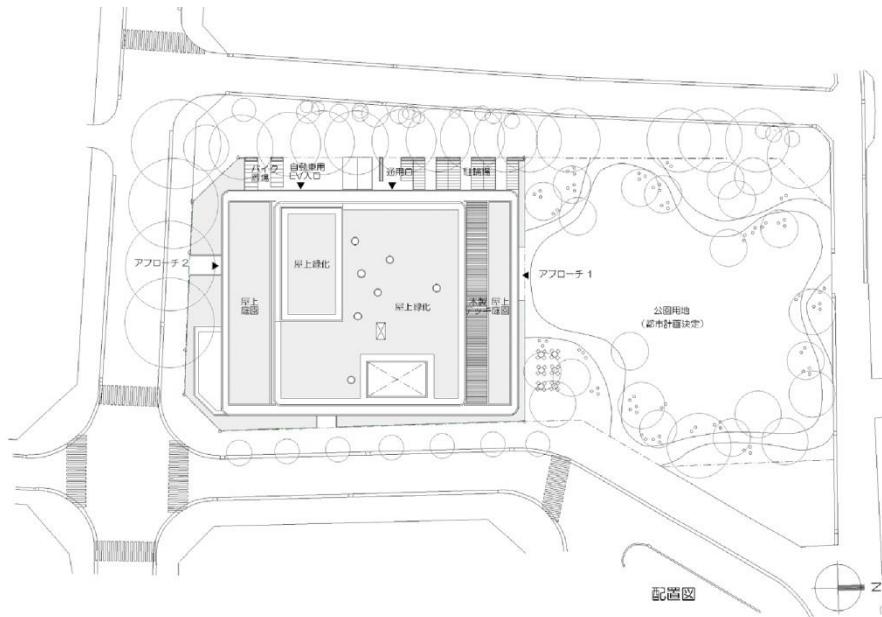
1. 一般書籍の書架、ワーキングデスク
2. テーマライブラリー、こどもライブラリー
3. ワーキングデスク、託児コーナー
4. フォーラム、市民活動情報コーナー、スタジオ、録音室
5. カフェ、テラス、公園

## 武蔵野プレイスとは...

武蔵野市立『ひと・まち・情報創造館 武蔵野プレイス』は、「図書館」をはじめとして「生涯学習支援」「市民活動支援」「青少年活動支援」の機能を併せもった施設です。

人々の交流が自然に生み出される「場」を提供し続けることにより、生活、文化、芸術、自然、歴史、まちづくり、ボランティア活動、市民活動、生涯学習、福祉、教育などといった横断的な活動やネットワークの活性化を促します。

多様な人々がそれぞれの活動を通して時間を共有する快適な空間(場)は、地域社会の魅力を高めることに寄与します。



## 4つの機能の連携と融合

### 図書館機能

他の機能との連携を図りながら、それぞれのライフステージに対応した的確な情報を提供し、利用者の多様なニーズに積極的に応えます。また利用者が主体的に情報収集できるように、図書館としての利便性・回遊性を追求しました。

- ・図書資料の充実
- ・図書配置方法の工夫
- ・図書閲覧環境の確保
- ・雑誌タイトル数の充実
- ・オンラインデータベースサービス



### 青少年活動支援機能

青少年が気軽に立ち寄ることができる「居場所」を創出。また、施設の利用を通じて、人との交流、情報交換という「つながり」を見出し、それをきっかけに市民活動、文化活動、地域活動へと参加していくことを支援します。

- ・情報交換の場や情報の提供
- ・講習・ワークショップ等の開催
- ・青少年の自主的活動支援



### 生涯学習支援機能

武蔵野プレイスは、知ることに親しみ、学ぶことを求める人々の知的好奇心に応え、学びたいときに、いつでも学ぶことができる「場」です。人それぞれの生涯学習スタイルに合った環境の提供はもちろん、地域の教育機関、企業等と連携した生涯学習に関する講座・事業の企画・運営を行っています。

- ・生涯学習事業・講座等の実施
- ・武蔵野地域自由大学の運営
- ・コンソーシアム型(外部団体等との連携)事業の実施
- ・生涯学習情報の提供や情報交換支援
- ・「武蔵野市地域映像アーカイブシステム」の構築



### 市民活動支援機能

市民活動に必要な環境の提供、情報の収集、相談業務を行い、現在活動している個人や団体の活動を支援するほか、これからの活動をはじめようとする人に対する支援を行います。また団体の活動を広げられるよう、団体間、団体と地域間等のコーディネーターの役割を果たし、開かれたネットワークの形成を支援します。

- ・市民活動に関わる情報の収集・提供・蓄積・編集・発信
- ・市民活動団体相互の交流を促進するためのネットワーキング機能
- ・団体の経営やマネジメントに関する支援
- ・組織の運営の仕方等についての相談・コンサルティング機能



[フロアマップ]



●施設概要

所在地：長野県茅野市ちの3502-1 ベルビア3階

延床面積：1,200㎡

設置者：茅野市

運営主体：茅野市

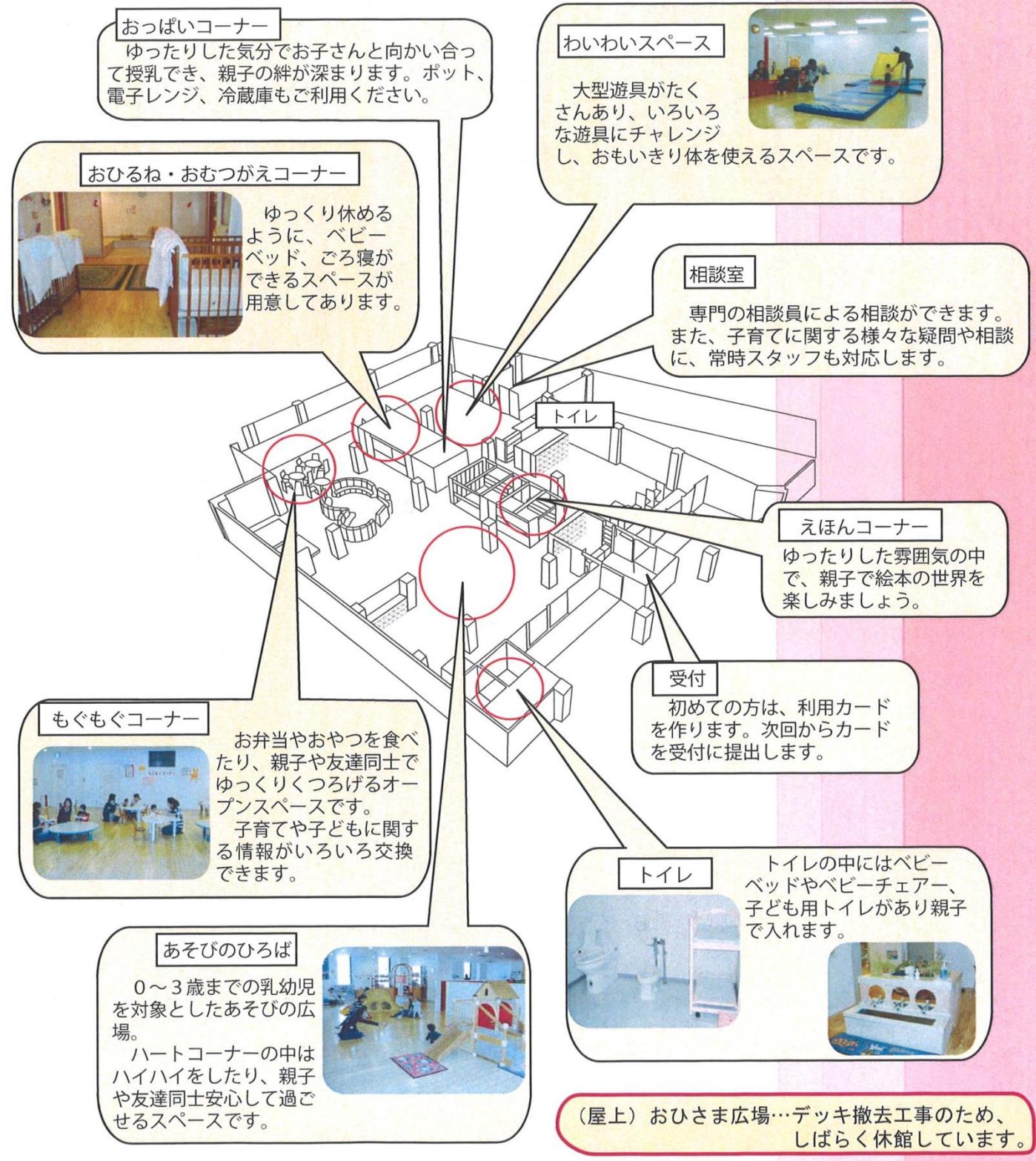
開設年：平成14年1月

主な施設：

1. 多目的広場
2. 遊戯室
3. 食事スペース
4. 絵本コーナー
5. 相談室
6. 赤ちゃんルーム



「子ども同士・親同士の出会いの場、教えて。」  
「育児のこと、もっと知りたいのですが。」  
そんな声におこたえできる広場です。



●施設概要

所在地 : 東京都文京区小日向2-16-15  
 延床面積: 8022.81㎡ (4階部分: 1,670.39 ㎡)  
 設置者 : 文京区  
 運営主体: 社会福祉法人 武蔵野会  
 開設年 : 平成27年4月

主な施設:

[文京福祉センター江戸川橋]

1. 事務所、健康相談室、ラウンジ
2. 学習室、トレーニングルーム、フレッシュルーム、浴室
3. 貸室(視聴覚室、地域活動室、料理教室、多目的室)

[その他]

- ・子育てひろば江戸川
- ・子どもショートステイ
- ・障害者支援施設、障害者機関相談支援センター
- ・カフェ、ストア

4階 文京福祉センター江戸川橋

[老人福祉センター]

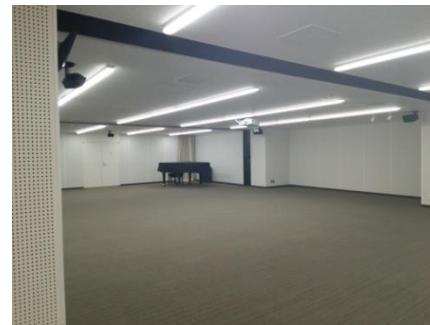
区内に住所を有する満60歳以上の方を対象に、介護予防、健康相談、入浴サービス等の各事業を行っている。

また、高齢者の交流の場として、学習室、トレーニングルームの貸出しを行っている。

[地域福祉振興施設]

地域福祉の振興を目的に、視聴覚室、地域活動室A・B・C、料理教室、多目的室の貸出しを行っている。

また、老人福祉センターの学習室、トレーニングルームは、夜間の貸出しを行っている。



各階平面図 地上4階・地下1階 延べ床面積 8022.81㎡



# 【複合公共施設】 ⑥えんぱーく 図書館、子育て支援・青少年交流・シニア活動支援、ビジネス支援、市民活動支援の複合施設

## ●施設概要

所在地 : 長野県 塩尻市 大門一番町12-2

敷地面積 : 約4,937m<sup>2</sup>

延床面積 : 約11,902m<sup>2</sup>

設置者 : 塩尻市

運営主体 : 塩尻市

開設年 : 平成22年7月

主な施設 :

●5階(約1,000m<sup>2</sup>)

イベントホール、会議室、民間オフィス など

●4階(約1,470m<sup>2</sup>)

商工課、中心市街地活性化推進室、塩尻商工会議所  
塩尻市ふるさとハローワーク、会議室、民間オフィス など

●3階(約2,850m<sup>2</sup>)

多目的ホール、会議室、音楽練習室、食育室、市民サロン など

●2階(約2,230m<sup>2</sup>)

図書館、フリーコミュニティ、ICTルーム、会議室、  
市民交流センター事務室 など

●1階(約3,250m<sup>2</sup>)

図書館、子育て支援センター、エントランスホール(水のコート)、  
風の広場、ショップ など

●地下1階(約1,260m<sup>2</sup>)

図書館作業室、閉架書庫、機械室 など



## ■機能融合を目指した事業運営

市民交流センターは

「図書館」……蓄積した情報を使って疑問や課題を解決し、新しい発見をする支援をします。

「子育て支援・青少年交流」……子育て中の方や子どもたちがともに学び、仲間作りができます。

「シニア活動支援」……多世代間の交流や活動を通じて、経験豊富な皆さんの知恵や文化を継承します。

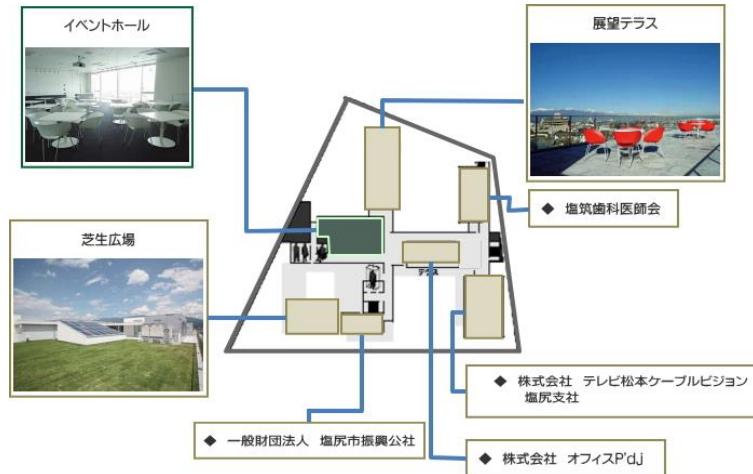
「ビジネス支援」……経営課題の相談や情報の取得、また新たな分野での活動を目指す皆さんを支援します。

「市民活動支援」……さまざまな活動の意欲を具体化した、次のステップへの活動を支援します。

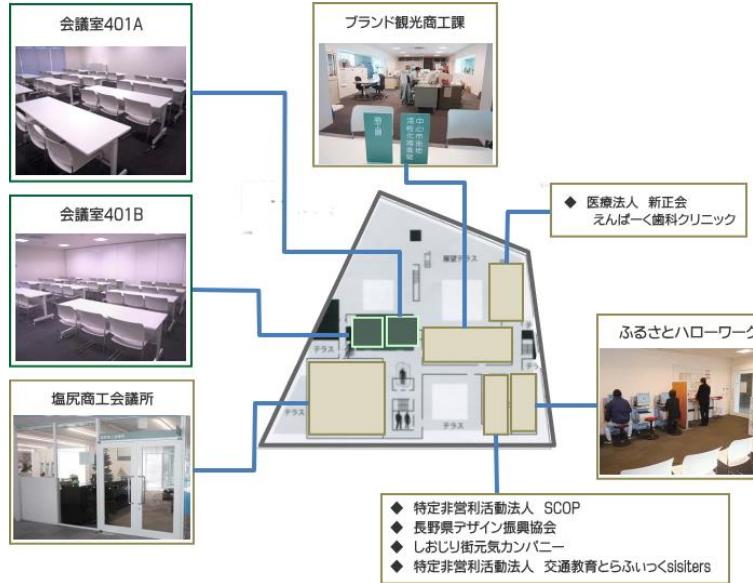
の5つの重点分野とする複合施設です。

この5つがここに機能を発揮すると共に、各分野が有機的に連携し、相乗効果を生み出す融合事業(交流企画事業)も展開していきます。

## 5階



## 4階



## 3階



## 2階



## 1階



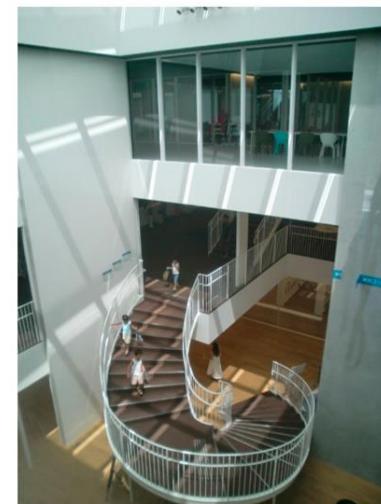
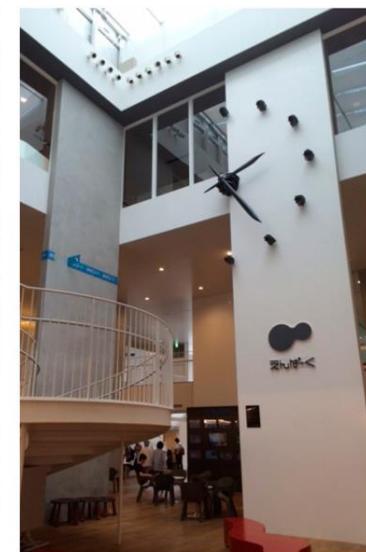
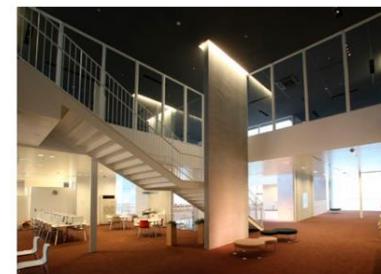
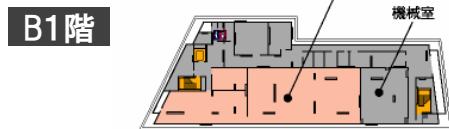
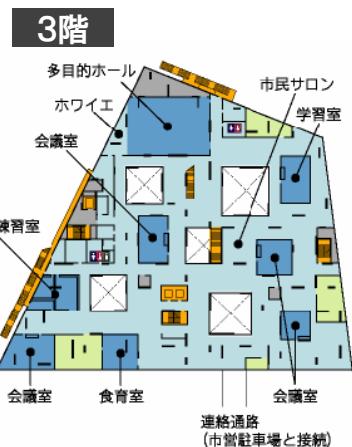
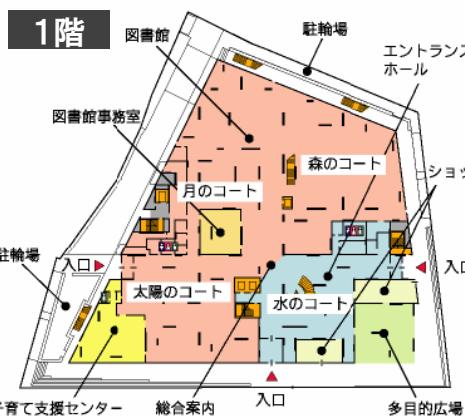
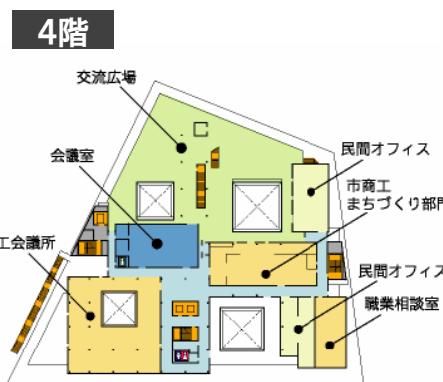
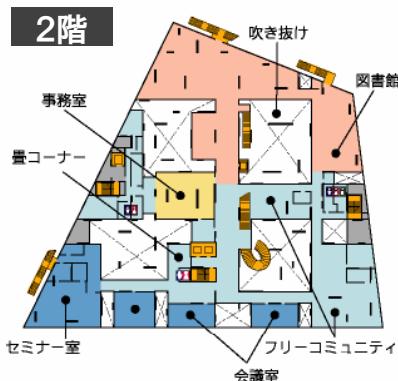
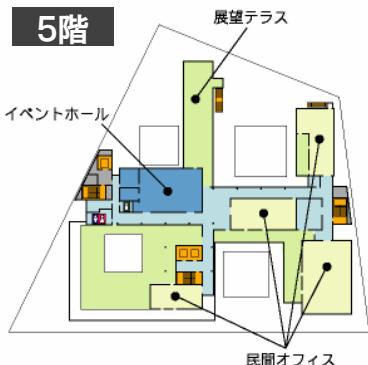
■施設の特徴

4つの大きな吹き抜けを通じて自然の光が降りそそぎ、広場の  
ような楽しい空間が広がっている。

「壁柱(かべしら)」と呼ばれる薄い板状の壁が建物を支え、  
人工の森の中にいる印象。

建物は三方がガラスで、どこにいても開放的な気分を味わう  
ことができ、周辺からも中の活動を見ることが出来る。

建物全体が公園のように親しみやすく、さまざまな空間体験を  
通して、誰もがわくわくする施設を目指している。



●施設概要

所在地 : 岐阜県岐阜市司町40番地5  
 敷地面積: 14,725.39 m<sup>2</sup>  
 延床面積: 15,295.04 m<sup>2</sup> (本体棟+付属棟)  
 設置者 : 岐阜市  
 運営主体: 岐阜市  
 開設年 : 平成27年7月  
 主な施設:  
 1. 中央図書館  
 2. 市民活動交流センター(多文化交流プラザを含む)  
 3. 展示ギャラリー、ホール、各種スタジオ  
 4. カフェレストラン、コンビニエンス、レンタサイクル 他

みんなの森 ぎふメディアコスモスは、「知の拠点」の役割を担う市立中央図書館、「絆の拠点」となる市民活動交流センター、多文化交流プラザ及び「文化の拠点」となる展示ギャラリー等からなる複合施設。設計は建築家 伊東豊雄氏が担当。



■市民活動交流センター、多文化交流プラザ

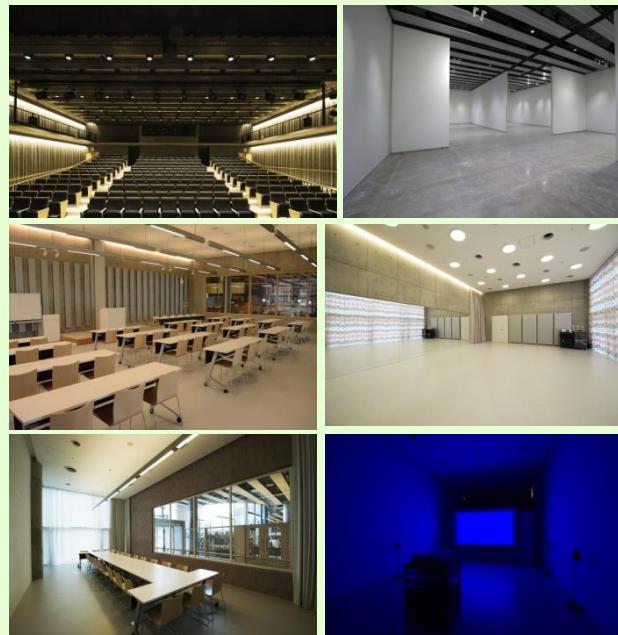
市民活動を「知る」「楽しむ」「支える」「育てる」「創造する」という5つの基本的な機能を有する『協働のまちづくりの推進拠点』として市民活動をより一層発展させ、市民活力を高めていくための取組を推進する。

- ◎市民活動情報の収集および提供
- ◎地域型コミュニティの活動支援
- ◎目的型コミュニティの活動支援
- ◎まちづくりに係る人材育成、団体間交流の促進

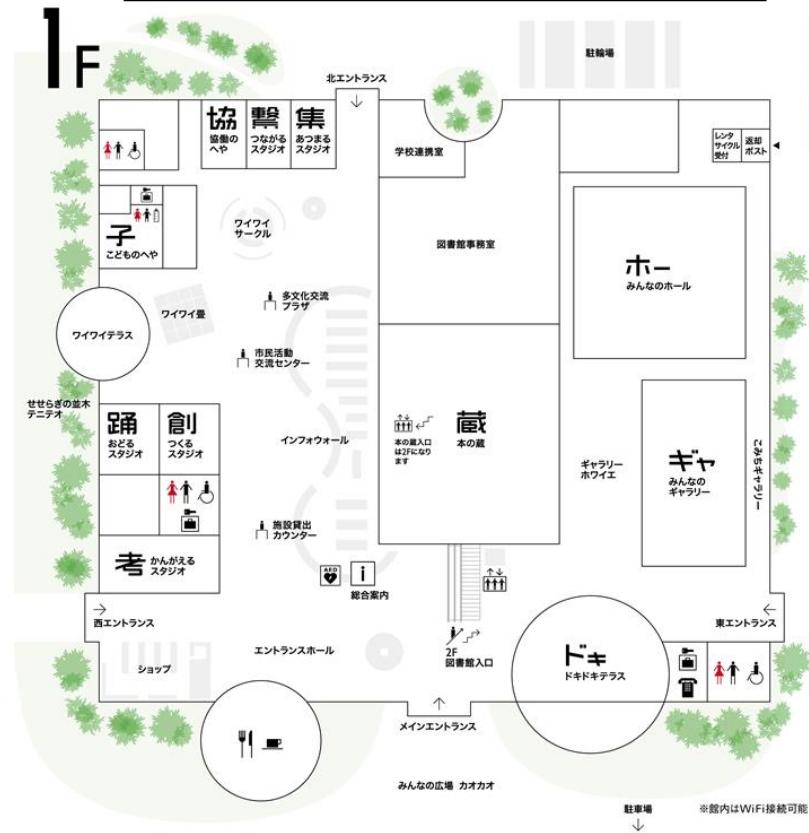


■展示ギャラリー、ホール、各種スタジオ

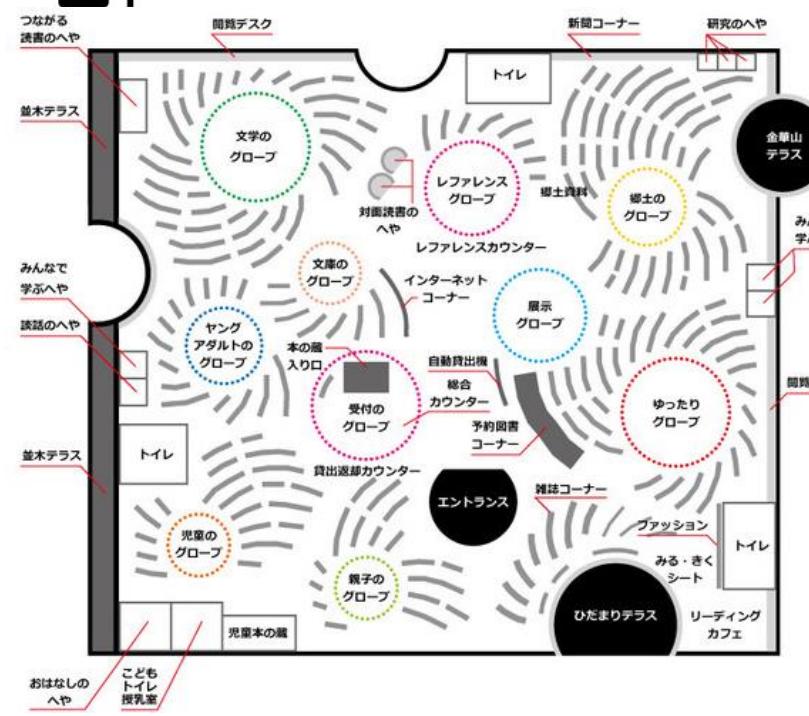
・展示ギャラリーは面積159.9m<sup>2</sup>で文化団体の作品展示や、市民活動団体の発表展示などにも利用。  
 ・ホールは面積333.9m<sup>2</sup>、230人収容で、式典や講演会、各種文学講座やシンポジウム、セミナーなどの会場としても利用。  
 ・講演会やセミナー向けのスタジオ「かんがえるスタジオ」、ダンスのレッスンや、ヨガスタジオ向けのスタジオ「おどるスタジオ」、ワークショップ向けのスタジオ「あつまるスタジオ」、映像を見ながらの少人数でのミーティング向けのスタジオ「つながるスタジオ」が揃っている。



市民活動交流センター、展示ギャラリー、ホール

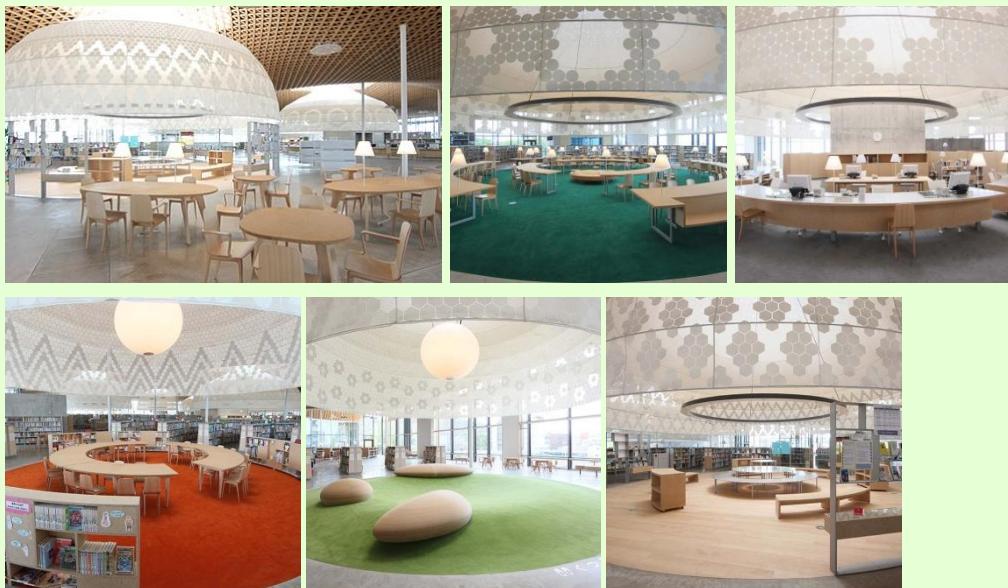


2F 中央図書館



■中央図書館

世代や分野ごとに「グローブ」という拠点を軸に円弧を描くように書架が配置。



●施設概要

所在地 : 京都府福知山市駅前町400番地  
敷地面積: 4879.63 m<sup>2</sup>  
延床面積: 6426.77 m<sup>2</sup>  
設置者 : 福知山市  
運営主体: 福知山市、京都府  
開設年 : 平成26年6月  
主な施設:

1. 図書館
2. 中央公民館(生涯学習ゾーン)
3. ジョブパーク
4. 保育ルーム

交流プラザふくちやまとは、まちと人・人と人をつなぐ交流空間を目的とし、図書館・中央公民館・北京都ジョブパークなどの機能を合わせ持つ複合施設。

図書館中央館

開館時には約16万冊の蔵書を備え、一般書、児童書、郷土資料、ビジネス関連書、バリアフリー資料など乳幼児から高齢者まですべての市民の皆さんに楽しんでいただける魅力ある図書館サービスを提供します。【6月21日オープン】

生涯学習ゾーン(中央公民館)

100~200人収容可能な市民交流スペース、展示室、調理室、和室、創作活動室、各種研修室を設置します。

北京都ジョブパーク

幅広い年齢層を対象に就職相談から職業紹介、職場への定着までワンストップで行う府北部の総合就業支援拠点です。(京都府営)

マザーズジョブカフェ(保育ルーム)

北京都ジョブパークをはじめ施設利用者のための乳幼児一時預りサービスを行います。(京都府営)



1F 図書館中央館 児童図書・児童絵本と子育てくらしの図書のフロア

- ロビー  
館内の行事予定や観光・イベント情報など来館者に多彩な情報発信を行います。
- 住民票等自動交付機  
住民票、印鑑証明書が発行できる自動交付機を設置します。
- ほっとはあとスペース“森cafe”  
喫茶・軽食コーナー(市内の福祉事業所により障害のある人の雇用の場として運営します)
- 図書館(いこいのへや)  
図書館内でも談笑と飲食のできるコーナーがあります。
- 図書館(児童書コーナー)  
乳幼児や小学生の本と、読書コーナーがあります。
- 図書館(おはなしのへや)  
靴を脱いで、乳幼児や小学生に絵本を読み聞かせたり、子どもたちが自由に絵本が読めるコーナーがあります。
- 図書館(対面読書室)  
目の見えない人や目が見えにくくなった人のために、本などをボランティアの皆さんが代読するための部屋があります。
- 階段室  
東面をガラス張りとし階段を昇りながら福知山城を眺望できます。



2F 図書館中央館 一般図書のフロア

- 図書館(新聞・雑誌コーナー)  
新聞16紙・雑誌約200タイトルを自由に読むことができます。
- 図書館(ティーンズコーナー)  
小学生・中学生・高校生の本と読書コーナーがあります。
- 図書館(郷土資料・レファレンスコーナー)  
郷土のことやさまざまなことを調べることができます。
- 図書館(一般書コーナー)  
小説や実用書を読むことができます。
- 図書館(閉架書庫・自動書庫)  
20万冊の図書が蔵書できる書庫を備えています。
- 図書館(研修室)  
読書支援のための学習や研修ができる部屋があります。



3F 生涯学習ゾーン 交流・創作・支えあいのフロア

- 中央公民館事務室  
施設の運営を行うほか、使用の申し込みの受付を行います。
- ハートフルスペース  
憩いの場として障害のある人など誰もが気軽にくつろいでいただけます。
- 市民交流活動室  
市民のさまざまなボランティア活動を支援します。(福知山市災害ボランティアネットワーク連絡会、福知山市ボランティアセンター)
- 市民交流スペース  
イベント、音楽会、講演会など多機能用途が可能な小規模ホール
- ギャラリー  
絵画、書、工芸等の作品展示ができるスペース
- 視聴覚室  
防音、画像、音響設備を備え演奏活動や映画鑑賞などが可能です。
- 会議室3-1、3-2、3-3  
用途や規模に応じてご利用いただけます。



4F 北京都ジョブパーク・生涯学習ゾーン 交流・就職支援のフロア

- 北京都ジョブパーク  
幅広い年齢層を対象に就職相談から職業紹介、職場への定着までワンストップで行う府北部の総合就業支援拠点です。
- マザーズジョブカフェ(保育ルーム)  
北京都ジョブパークをはじめ施設利用者のための乳幼児一時預りサービスを行います。
- アトリエ  
工芸をはじめ様々な創作活動を支援するスペース
- けやきの間・うぐいすの間(和室)  
茶道、華道など多様な利用が可能(16畳・12畳の2室)
- キッチンルーム  
料理教室など市民の食育活動を支援します。
- 会議室4-1、4-2  
遠音設備を備え、音楽活動にも利用可能です。





# 【官民複合施設】 ⑩紫波町オガールプラザ

# 官民連携による多彩な機能の集積した大規模複合型(10ha)のまちづくり

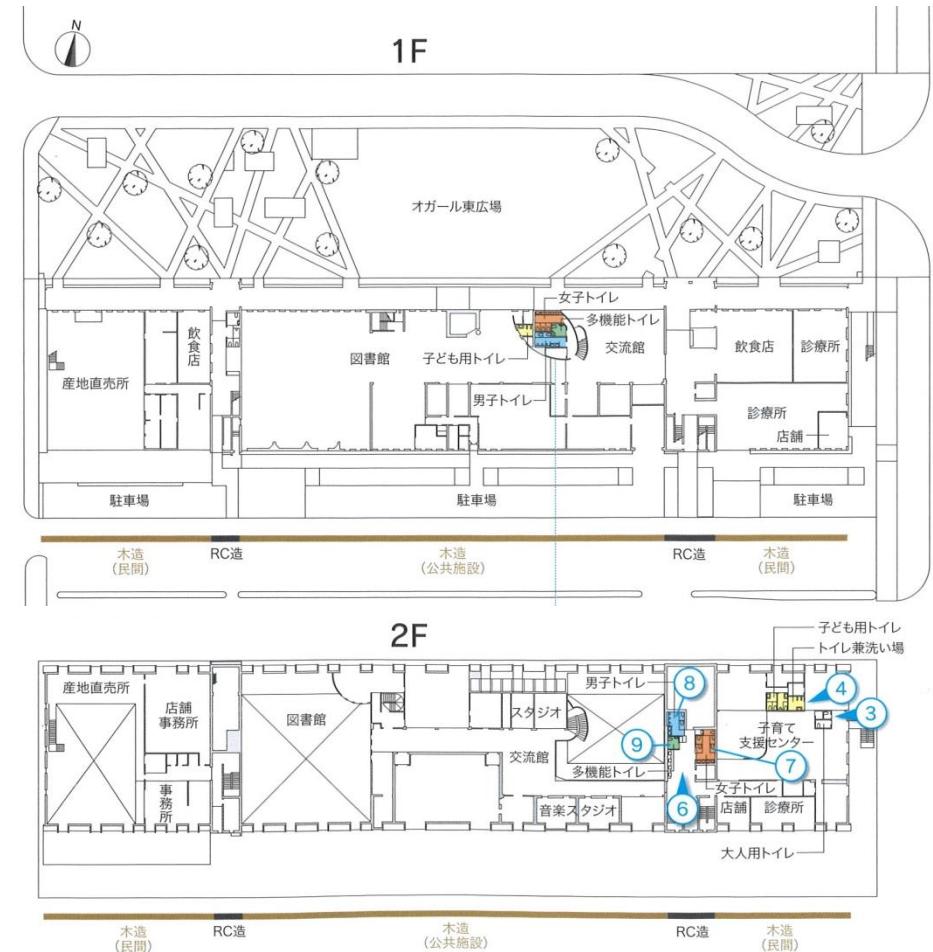
## ●施設概要

所在地 : 岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前2丁目3-3  
 延床面積 : 5826.02㎡  
 (プロジェクト全体の面積21.2ha(町有地10.7haを含))  
 設置者 : オガールプラザ株式会社  
 運営主体 : オガールプラザ株式会社, 紫波町  
 開設年 : 平成24年6月  
 主な施設:  
 1. 公共施設 (図書館・地域交流センター)  
 2. 10の民間テナント  
 (子育て応援センター、薬局、クリニック(2)、学習塾、マルシェ、眼鏡コンタクトショップ、カフェ、居酒屋、事務所)



快適な中央広場では、交流スペースとして様々なイベントが開催されている。

まちづくりの企画・設計から管理運営まで、公民で設立したまちづくり会社を中心実施



### オガールプロジェクトについて

公民連携によって、紫波中央駅前の10.7haの未利用土地に複合施設をつくるプロジェクト。  
 駅前正面から奥へ250mにわたって続く「オガール広場」を挟んで、左に図書館、子育て支援センター、産地直売所などが入る「オガールプラザ」(ケーススタディ、10~13ページ参照)、右にはホテルやバレーボール専用コートなどが入る「オガールベース」が並ぶ。  
 さらにスポーツ施設、新しい庁舎、そして住宅街区などが建設されている。  
 「オガールプラザ」は公共施設だが、一部を民間のオガールプラザ株式会社(代表取締役・岡崎正信)が運営している。

### 整備方針

- 統一感のある景観で住みよまちに
- 歩行環境の充実
- 回遊性、快適性を重視した道路網
- 多様な用途に活用できる公共空間
- 駐車場をバランスよく配置
- 環境に配慮した便利な交通システムで経済活動を支援
- 公共投資を誘発剤として民間投資を促進
- 雇用機会を創出し快適な環境を提供する民間投資を推奨
- 設計・コンペで町の特色を生かした創意的な設計を採用



\*1 PPP Public Private Partnership(公民連携)の略。公民が連携して公共サービスの提供を行うこと。PFI(\*2)や指定管理者制度などの手法がある。PFIより広義のため、PFIではなくPPPと呼ばれる事業は、企画段階から民間が参加するなどの多様な公民連携を行っていることが多い

\*2 PFI Private Finance Initiative(民間資金等活用事業)の略。民間の資金、経営能力、技術的能力を活用して、公共施設の建設、維持管理、運営などを行う手法。